

ShinEtsu
信越ポリマーグループ

環境・社会報告書2015

Shin-Etsu Polymer Sustainability Report 2015



企業理念

遵法に徹し公正な活動を行い、 素材と技術を通じて、 暮らしや産業、社会に貢献する。

信越グループは、安全、公正を最優先とする経営に徹し、
社会とともに成長し続ける企業を目指しています。

企業行動指針

**限りない挑戦と飛躍！
将来の展望と希望を実現し創造性と
活力に充ちた企業を目指します。**

- 1 イノベティブな製品・サービスにより、マーケットで成長を遂げようとする企業の、強力なパートナーとなっていきます。
- 2 常に顧客の立場で考え、提案し、顧客の価値創造、成長に資する製品・サービスをグローバルに提供します。
- 3 株主、顧客、従業員、社会及び地球環境に対し、その求められている企業責任を果たします。

シンボルマークについて

「“グリーンな環境”の中で当社のキラリと光る価値を生み出している」といった気持ちを、緑の葉と光る露に託して表現しました。



藍色の水、緑の樹木、青い空の組み合わせで「生命力を継続的に発展させよう」、またShin-Etsuカラーで信越ポリマーの発展をイメージしました。



企業行動規範

- 1 私たちは、信越ポリマー株式会社及びそのグループ会社の社員としての誇りと自覚をもち、遵法精神に徹し、法令や社内規程・規則等を遵守して、公正かつ透明性の高い企業活動を行い、社会から信頼される会社となるよう努めます。
- 2 私たちは、必要な企業情報を幅広く適時、適切に開示し、「開かれた企業」として、株主、投資家、顧客、地域社会等のステークホルダーはもとより、社会とのコミュニケーションを促進します。
- 3 私たちは、各国・地域の歴史・文化・慣習等を尊重し、相互信頼を基盤とした事業展開を心がけ、地域との共存をはかります。
- 4 私たちは、地球環境保全を最重要課題の一つとして認識し、その求められている社会的責務を果たすことにより、持続可能な発展を目指した循環型経済社会の構築に積極的に参画します。
- 5 私たちは、事業活動を通じて、環境に配慮した優れた性能の製品の開発・製造に努め、豊かな社会と環境保全に寄与します。また、グリーン調達を実施し、化学物質などを適切に管理し、製品に含有する物質に関する規制を遵守します。
- 6 私たちは、顧客、消費者のみならずの要望に応え、十分満足いただける魅力ある安全で良質な製品・サービスの提供に努めます。また、お客様のプライバシーにかかわる個人情報は大切に取り扱い、情報の流出や不正な利用のないよう厳正な管理を行います。
- 7 私たちは、自由な競争原理を尊重し、常に、公正な取引を心がけます。また、顧客、消費者のみならずと透明性の高い公正で健全な関係を築き上げます。
- 8 私たちは、従業員の人権、人格、多様性を尊重し、公平な処遇を実現するとともに、それぞれの能力・活力が発揮できるような職場環境をつくります。労働関係法令を遵守し、児童労働、強制労働等の非人道的な労働行為は行いません。
- 9 私たちは、政治・行政とは、健全かつ正常な関係を維持します。
- 10 私たちは、社会秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力、団体などに対しては、毅然とした態度で対処します。
- 11 私たちは、「良き企業市民」として積極的に社会貢献活動を行います。

編集方針

信越ポリマーグループは2001年度より「環境・社会報告書」を発行しています。本報告書では、当社グループの地球環境保全や環境経営に関する考え方、取り組みと実績を中心に、またCSRにかかわる活動についても報告しています。

2015年版の編集方針は次の通りです。

- ① 環境省の「環境報告ガイドライン2012年版」に準拠して報告します。
- ② セグメントごとの製品紹介とともにエピソード編では安全・安心な社会の実現に貢献する「環境配慮・貢献製品」を紹介し、「EXELAST™」は摺動性に優れた樹脂であり、自動車関連で評価をいただいています。また、半導体関係の工程削減に寄与している「Shin-Etsu TWSS」を紹介いたします。
- ③ 報告内容は「コーポレート・ガバナンス」及び「お客様」「従業員」「地域社会」「環境」とのかかわりについて体制と活動をまとめ、見やすく・わかりやすい構成に努めています。
- ④ 本報告書（英語版を含む）及び詳細な環境データはWebサイトに掲載しています。また、新たな情報についてもWebサイトで提供していきます。
- ⑤ 2015年版の第三者所感も、上智大学経済学部の上妻義直教授からご意見をいただき、今後の取り組みに役立てて参ります。

WebサイトURL <http://www.shinpoly.co.jp/environment/report/>

- 報告対象期間 2014年4月～2015年3月
- 発行 2015年9月（次回発行予定 2016年9月）
- 報告対象組織
信越ポリマーグループ
※ 詳細はP.29に記載しています。
- 報告対象分野
本報告書は環境保全及び社会的活動分野について報告しています。当社の事業概要は会社案内をご覧ください。
- お問い合わせ先
信越ポリマー株式会社 社長室
〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-9 相鉄神田須田町ビル
TEL 03-5289-3714 FAX 03-5289-3707
URL <http://www.shinpoly.co.jp>

装幀について

信越ポリマーグループでは、持続可能な社会の実現を地域の皆様とともに考え、行動していきたいと考えています。環境・社会報告書の装幀では、生産事業所所在地で環境省の第四次レッドリストに掲載されている「県の鳥」を、四季のイメージ、生息地とリンクさせ、その想いを表現しています。2015年度版は、新潟ポリマー(株)のある新潟県の「トキ」が秋の夕日の中を飛ぶ姿を描きました。「県の花」シリーズ(2005～2008年度版)、「県の木」シリーズ(2009～2012年度版)、「県の鳥」シリーズ(2013～2016年度版)に共通するキーワードは「生物多様性」です。



目次

はじめに

会社概要／主要指標のサマリー	4
製品紹介	6
トップメッセージ	8

特集

Episode 環境配慮・貢献製品① 高摺動性コンパウンド 「EXELAST™」	10
--	----

Episode 環境配慮・貢献製品② Shin-Etsu TWSS (Thin-Wafer-Support-System)	12
---	----

コーポレート・ガバナンス	14
--------------	----

お客様への対応	16
---------	----

従業員とともに	18
---------	----

地域社会とともに	22
----------	----

環境とともに

環境基本方針／環境経営体系図	24
環境マネジメントシステム	25
グリーン運動・目標と実績	26
環境配慮・貢献製品の創出 ／評価基準	28
事業活動に伴う環境負荷	29
地球温暖化対策	30
資源有効利用対策	33
化学物質管理	35
生物多様性の保全への取り組み ／汚染防止への取り組み	36
環境会計・活動のあゆみ	37

おわりに

第三者所感	38
アンケート結果／編集後記	39

信越ポリマーグループの事業概要

● 会社概要

会社名：信越ポリマー株式会社

設立：1960年9月15日

本社：東京都千代田区神田須田町1-9
相鉄神田須田町ビル

資本金：116億3,595万円

従業員：連結3,962名（うち女性2,284名）

単独 608名（うち女性107名）

（2015年3月31日現在）

国内生産事業所：東京工場、南陽工場、児玉工場

連結子会社数：17社

国内生産事業所

しなのポリマー(株)

浦和ポリマー(株)

新潟ポリマー(株)

(株)サンエース

国内非生産事業所

信越ファインテック(株)

海外生産事業所

蘇州信越聚合有限公司

東莞信越聚合物有限公司

Shin-Etsu Polymer (Malaysia) Sdn.Bhd.

P.T. Shin-Etsu Polymer Indonesia

Shin-Etsu Polymer India Pvt. Ltd.

Shin-Etsu Polymer Hungary Kft.

海外非生産事業所

信越聚合物(上海)有限公司

Shin-Etsu Polymer Hong Kong Co., Ltd.

Shin-Etsu Polymer (Thailand) Ltd.

Shin-Etsu Polymer Singapore Pte. Ltd.

Shin-Etsu Polymer America, Inc.

Shin-Etsu Polymer Europe B.V.

● 主な事業

当社は塩ビ加工メーカーとして設立以来、シリコンゴムや各種プラスチックの「材料・配合」「設計」「加工プロセス」「評価・解析」の基盤技術の応用展開に努めてきました。

現在、樹脂加工メーカーとして、自動車、情報機器関連から半導体、建設関連に至る幅広い分野で、お客様の多様なニーズにお応えしています。

電子デバイス事業

- 入力デバイス
自動車用キースイッチ、ノートパソコン用タッチパッド、リモコン入力部品、白物家電用スイッチ
- ディスプレイ関連デバイス
電子機器用コネクタ、ATM / PCのぞき見防止フィルム
- コンポーネント関連製品
スマートフォン向け防水製品、部品検査用コネクタ、ワイパーブレード

精密成形品事業

- OA機器用部品
プリンタ・FAX・PPC用各種ローラ
- シリコンゴム成形品
医療用カテーテル、シリコセン、粘着プレート、防火ガスケット
- 半導体関連容器
ウエハーケース、半導体関連容器
- キャリアテープ関連製品
エンボスキャリアテープ、トップカバーテープ

住環境・生活資材事業

- ラッピングフィルム
生鮮食品用包装フィルム、糊つきフィルム
- プラスチックシート関連製品
工業用シート、複写機用プラ天シート、難燃シート
- 機能性コンパウンド
各種電線用（通信ケーブル、ロボット電線等）、自動車用内・外装品
- 塩ビパイプ関連製品
上・下水道配管、一般排水配管、農業用配管、パイプ継手
- 外装材関連製品
塩ビ／ポリカーボネート波板、塩ビサイディング

その他

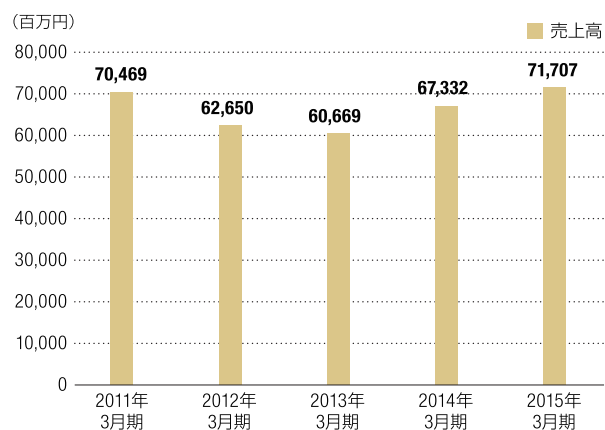
- 建築
商業施設、トイレ等の内外装設計・施工
- 包装資材
工業用トレイ、果実用包装・農業資材、買い物カゴ・コンテナ洗浄

主要指標のサマリー

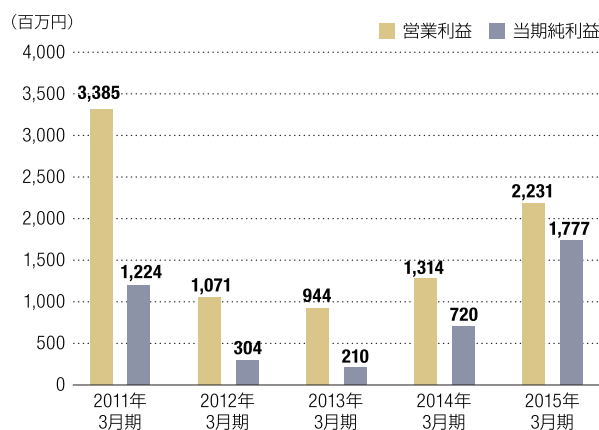
当社グループの市場環境については、自動車関連分野における生産活動が順調に推移し、また、半導体及びOA機器関連分野の需要も堅調に推移しました。このような状況のもと、当社グループは、新しい組織体制の総合力

を活かして事業拡大を図っており、販売面では、新製品提案に重点を置いた営業活動をグローバルに展開し、生産面では、品質及び生産効率の向上などに技術部門及び製造部門が一体となって取り組んできました。

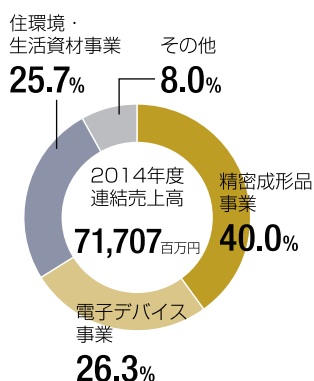
連結売上高推移



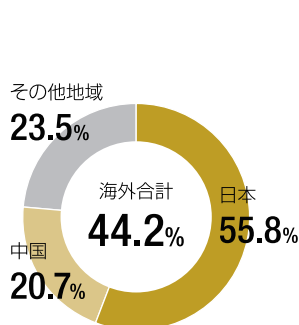
連結営業利益、当期純利益の推移



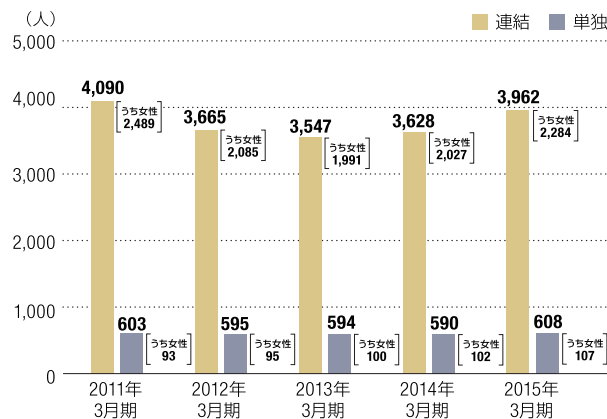
事業セグメント別 連結売上高構成比



連結海外売上高 構成比



従業員数推移



主要指標の推移

回次 (決算年月)	第51期 (2011年3月)	第52期 (2012年3月)	第53期 (2013年3月)	第54期 (2014年3月)	第55期 (2015年3月)
売上高 (百万円)	70,469	62,650	60,669	67,332	71,707
営業利益 (百万円)	2,231	1,314	944	1,071	3,385
総資産額 (百万円)	81,326	81,017	81,342	88,644	93,889
ROE (%)	2.0	0.5	0.3	1.1	2.6
国内生産事業所生産重量 CO ₂ 排出量原単位 (t-CO ₂ /t)	0.6763	0.6048	0.6878	0.7144	0.7102
海外生産事業所生産重量 CO ₂ 排出量原単位 (t-CO ₂ /t)	13.59	10.17	11.64	11.59	11.83
エミッション率 (%)	0.36	0.52	0.24	0.22	0.29
災害件数 (うち休業災害件数)	9 (5)	11 (3)	14 (6)	8 (3)	11 (1)

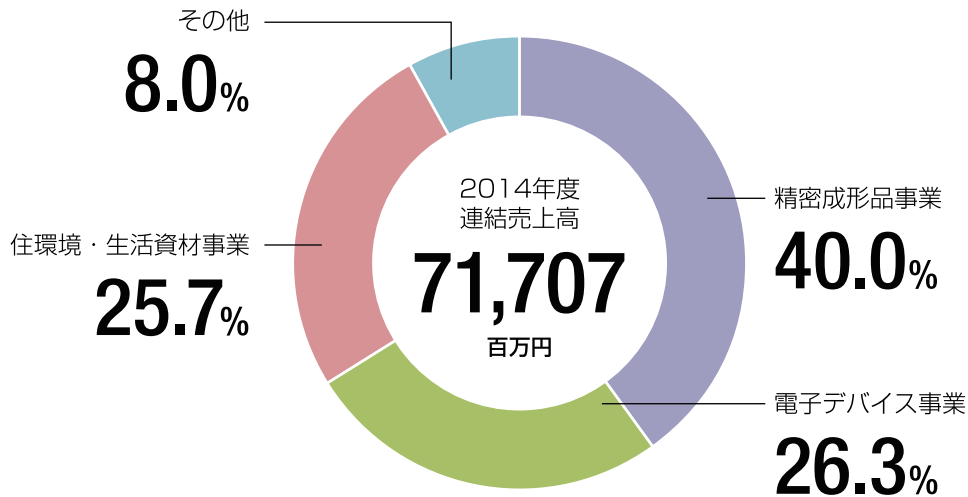
- 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- その他経営指標等につきましては当社有価証券報告書をご覧ください。
- エミッション率は国内生産事業所の値です。
- 災害件数等は当社国内外生産事業所の暦年の値です。

製品紹介

シリコンゴムや各種プラスチック、導電性素材をキーマテリアルとした「材料・配合」、「設計」、「加工プロセス」、「評価・解析」の基盤技術の応用展開に努めています。自動車、情報機器、事務機器、医療機器、半導体、電

子部品、生活資材に至るまで幅広い分野で、グローバルなネットワークの下での生産・販売活動を通じて、日本はもとより世界の広い範囲で多様なお客様のニーズにお応えしていきます。

セグメント別売上高構成比



電子デバイス事業

当事業セグメントは、自動車電装部の入力デバイスや情報機器などエレクトロニクス関連分野を中心に事業展開しており、早くから海外販売、海外生産を展開するなど全社的に海外ビジネスをリードしています。

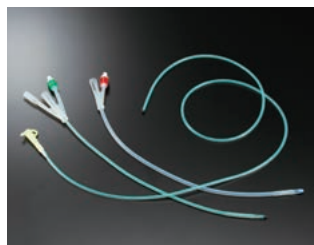
	キースイッチ	タッチスイッチ	視野角制御フィルム
自動車	<p>リモートキーレスエントリー</p>	<p>コンソール用</p>	<p>ナビ用映り込み防止フィルム</p>
情報機器	<p>キースイッチ</p>	<p>白物家電用</p>	<p>ATM用のぞき見防止フィルム</p>

精密成形品事業

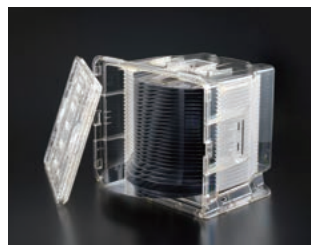
シリコンゴムを主材料としたOA機器用部品や医療機器用部品、半導体シリコンウエハー出荷・搬送用ケース、電子部品の自動実装用資材など当社独自技術を活かした精密成形品を国内外に展開しています。



OA機器用ローラ



メディカル用シリコンゴム製品



半導体シリコンウエハー
出荷・搬送用ケース



電子部品実装用資材

住環境・生活資材事業

住宅関連の建設資材、食品用包装資材、成形加工用中間材料「コンパウンド」など、塩化ビニル樹脂を主原料とした成形加工製品で幅広い事業を展開しています。コンパウンドは、自動車分野への採用が拡大している成長製品のひとつであり、安定した収益の確保を目指しています。



塩ビパイプ



外壁化粧材
「ポリマパネル」



導電性ポリマー
「SEPLEGYDA®
(セプルジータ)」



「ポリマラップ」



コンパウンド

その他

商業施設の改装など工事関連事業および工業用・食品用包装資材などの開発・販売を行っています。工事関連事業では、スーパーマーケットや飲食店などの商業施設を中心に、出店計画から設計・施工、アフターケアに至る一貫した責任施工体制のもと、総合的なサービスを行っています。また、開発・販売事業では、工業部品・製品を搬送する工業用トレイ、果実用の包装資材・農業資材の製品開発と販売を展開しています。



スーパーマーケットの
出店計画・設計・施工

トップメッセージ

総合力を最大限に発揮し、
力強く成長することで
持続可能で安全・安心な
社会の実現に貢献します



当社グループが目指すこと

信越グループが目指すのは、安全第一、公正な企業活動を最優先する経営に徹し、社会とともに成長し続ける企業です。当社は、信越化学工業(株)の加工メーカーとして発足し、今年9月に満55年を迎えます。加工メーカーである私たちが常に意識していることは、「地球環境保全に貢献する」ことです。2000年からスタートした当社グループ独自の全社運動「グリーン運動」は省エネルギー、省資源、環境負荷低減を図るための運動です。今後も「グリーン運動」を通じて、持続可能な社会の実現に貢献して参ります。

また、お客様に安心して当社グループの製品をお使いいただくために、昨秋には品質管理体制を強化しました。引き続き、安全・安心な製品を提供し続けることで、よりよい社会の実現のために貢献して参ります。

《CSRを基盤とした経営》

●安全第一に徹する

安全は企業活動の基盤として経営の最重要課題の一つであり、人に優しい職場の実現に向け、積極的に活動を進めています。

2014年度の労働災害発生状況は、前年度と比較して災害件数は増加しましたが、休業災害は減少しまし

た。安全意識の欠如が発生原因の一つであり、危険予知トレーニング(KYT)等を推進することにより危険に対する感性を磨き、安全意識の向上を図ることで、今後も「ゼロ災」の達成を目指して参ります。

P.21を参照ください

●透明性の高い経営と公正な企業活動に向けて

当社グループは、企業価値を高めるため、コーポレート・ガバナンスの充実、コンプライアンス体制の強化に努めております。

今年6月には独立社外取締役を1名増員し、計2名とし、経営の監督機能を強化しました。また、引き続き監査役監査機能と内部監査体制の充実を図り、企業集団としての内部統制を進めて参ります。

また、株主、お客様などのステークホルダーの皆様にも重要な情報を適切に開示することを通じて、透明性の高い、公正な企業活動を実現して参ります。

P.14を参照ください

●人権の尊重

人種、性別、学歴、職歴、ハンディキャップ等を理由とした不当な差別を排除しています。また、グローバルな企業活動を展開する中で、強制労働や児童労働などが発生しないよう人事管理には十分に注意を払っています。

P.18を参照ください



代表取締役社長

小野義昭

2015年9月

《地球環境保全と環境配慮経営》

●地球環境保全へ貢献する

当社グループは全社活動である「グリーン運動」を積極的に推進し、3年ごとに中期目標を設定しています。

私たちは、地球環境保全に貢献するために、省エネルギーや、資源の有効利用のために廃棄物を削減するなど、地球温暖化対策を実施しています。

2014年度は第4次中期目標の最終年度に当たりました。その結果ですが、CO₂排出量原単位は2008年度と比較して生産重量の減少等により目標に未達でしたが、廃棄物排出量原単位は達成することができました。私たちは、第5次中期目標として、未達項目への再チャレンジと達成項目の維持・向上を掲げており、目標の達成に向けて活動して参ります。 P.26を参照ください

●環境配慮経営を強化する

当社グループでは持続可能な社会の実現のために、市場のニーズに合致し、お客様の課題を解決する製品を「環境配慮・貢献製品」と位置付け、開発を推進しています。対象製品は、環境負荷を低減させる“環境に配

慮した製品”、または、お客様の製品において環境負荷低減に“貢献できる製品”です。

今後も基幹技術である「材料・配合」「設計」「加工プロセス」「評価・解析」を駆使して、お客様から期待される製品開発を行って参ります。

P.28を参照ください

本報告書は環境省の「環境報告ガイドライン2012年度版」に準拠し、主要業績評価指標（KPI）の目標と結果をグリーン運動の活動状況として報告しております。これらの内容について、ステークホルダーの皆様から、率直なご意見やご感想をいただけたら幸いに存じます。また、第三者所感については、本年も上智大学経済学部・上妻義直教授からご意見をいただき、今後の取り組みに役立てて参ります。

当社グループは今後も持続可能な安全・安心な社会の実現に貢献するための取り組みを積極的に推進して参ります。

今後とも皆様のより一層のご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

Episode 環境配慮・貢献製品①

高摺動性コンパウンドの省エネ・省資源用途拡大

高摺動性コンパウンド
「EXELAST™」

摺動性を付与するためにシリコンを配合して開発された高摺動性（※）コンパウンド「EXELAST™」。

“滑りやすい”機能が市場で求められる中、ベースとなる樹脂のバリエーションを増やし、お客様のニーズに細やかに対応することで活躍の場を広げています。

※摺動性：摩擦が少なく滑りやすいこと



市場に合わせて幅広いラインアップ

さまざまな素材とシリコンを組み合わせ、ベースとなる素材に“滑りやすさ”という機能を付加した高摺動性コンパウンド「EXELAST™」。20年前に開発され、現在はPVC（塩化ビニル樹脂）系のSEグレード、PO（オレフィン樹脂）系のSXグレード、TPU（ウレタン樹脂）系のECグレードをラインアップしています。それぞれ、用途に合わせて固さ、摺動性の度合いなどをカスタマイズし、これまでに製造した種類は100以上に上ります。

片田「「EXELAST™」に汎用品（規格品）はありません。お客様のニーズ・スペックに合わせて配合設計しています。どのグレードも押出成形・射出成形に対応可能なので、多様な方面でご使用いただけたらと考えています」

自動車の省エネ・軽量化に貢献

今、最も市場に出ているのが、SXグレードです。自動車のパワーウィンドウの昇降を滑らかにするガラスランチャネルのガラスと接する摺動面に採用されています。従来、この部分はゴムにシリコン塗料やウレタ

ン塗料を塗布するか、ナイロンパイル等を植毛することによって滑りをよくしていましたが、高い摺動性を有する「EXELAST™」の採用によって、お客様によるこれらの工程が不要となりました。また、一部車種ではドアガラスを昇降させる負荷エネルギーが低減できるためモーターの小型化につながり、車両全体の省エネ・軽量化に貢献しています。

野田「ただし、ガラスランチャネルの形状が変われば、同じ配合でも滑りやすさが変わります。そこで最大限の摺動性を求めて、配合を変えたり、構造を変化させたりする。ここが当社の強みです。当社独自のシリコン配合技術を活用することで、他社には真似のできない対応を実現しています」

建物の気密性を高め
冷暖房効率の向上による
消費エネルギーの低減に貢献

「EXELAST™」は、建材の分野でも活用されています。サッシの気密性を高めるシールド部分は、塩化ビニル樹脂にフッ素をコーティングして滑りをよくしていますが、摺動性の良い「EXELAST™」に代替することでフッ素コーティングが不要になり、加工工程の

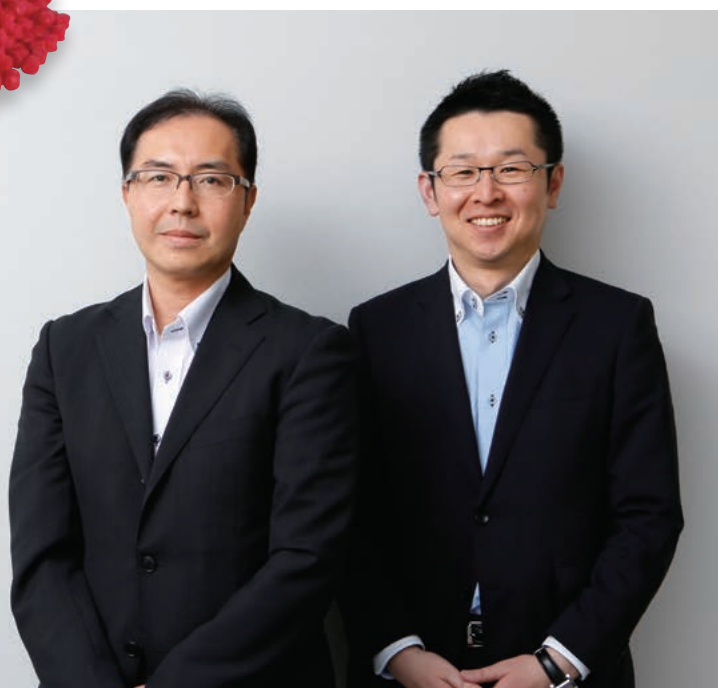


営業本部 営業第四部
第三グループ 化成品販売チーム
マネジャー

片田 耕介 (右)

技術生産本部
生産技術第二部 第一グループ
マネジャー

野田 修康 (左)



削減に貢献します。またコーティング工程で環境や人体に負荷を与える有機溶剤が用いられること、及びコーティングした部材のリサイクルが難しいことから、「EXELAST™」に変えることで環境負荷低減や廃棄物削減につながっていきます。

また、「EXELAST™」は樹脂サッシにも採用されています。樹脂サッシは熱伝導率が低く、気密性が高いため冷暖房効率が向上し、家庭の省エネルギーに貢献しています。

進化を続け、活躍の場を拡大中

このほか、「EXELAST™」は各種ケーブルにも使用されています。SEグレードは産業用ロボットのケーブルベア内で使用されるケーブルの被覆材に採用されています。これは従来品よりも摺動性が高く摩耗しにくいことから耐久性が向上し、ケーブルの定期交換の回数削減が実現できています。

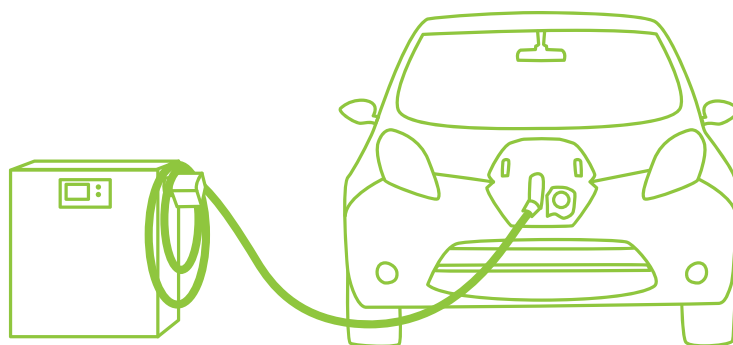
また、ECグレードは電気自動車の急速充電用ケーブルの被覆材に採用されています。街中の充電スタンド

ではケーブルの出し入れの容易さが求められ、高い摺動性によりケーブルの取り扱いの良さに寄与しています。

片田「「EXELAST™」は国内外のお客様から非常に高いご評価をいただいています。まだ課題もありますが、将来的には「EXELAST™」がグローバルスタンダードになるよう認知度を高めていきたいと考えています」

野田「他の分野でも使用されるように、現在の3つの樹脂グレード以外にもバリエーションの幅を広げる開発を続けています。更に技術力を向上させて、市場に受け入れられやすい製品を開発していきたいと思います」

バリエーションを増やし機能を向上させて、活躍の場を広げる「EXELAST™」。省エネ、省資源、環境負荷低減などのニーズに応え、お客様のものづくりに貢献していきます。



Episode 環境配慮・貢献製品②

半導体製造プロセスにおける環境貢献製品の提案

Shin-Etsu TWSS

(Thin-Wafer-Support-System)

極薄化が進む半導体ウエハー。今では数十 μm の薄さも珍しくなく、今後さらに薄化は進んでいきます。

そこで、問題になるのが製造プロセスにおけるハンドリング。

当社では、2008年から薄化ウエハーをサポートするための治具：

Shin-Etsu TWSS (Thin-Wafer-Support-System)を開発。

現在は、ディスクタイプとリングタイプを提供し、半導体製造プロセスの工程削減に寄与しています。



Shin-Etsu TWSS™リングタイプ

ドライプロセスでお客様の工程を削減

近年の半導体ウエハーは、大容量化、高機能化に対応するために、積層されて使われることなどが増えてきています。こうした技術を可能にするために極薄化が進んでおり、現在では100 μm を切り、数十 μm の厚みまで薄くなってきているものもあります。このように極薄化されたウエハーは非常に反りやすく、また割れやすくなるため、



Shin-Etsu TWSS™ディスクタイプ

営業本部
営業第三部
第一グループ FI第二チーム
若林 亮 (左)

技術生産本部
生産技術第四部
第一グループ
小田嶋 智 (右)

ハンドリングには薄化ウエハーを固定する支持体などが必要となり、高剛性の支持体に接着剤で固定し補強する技術が開発されています。しかしながら、この固定方法は最終的に溶剤で接着剤を剥がしたり洗浄したりするなどのウェットプロセスが追加となり、更には環境や人体に負荷を与える有機溶剤を用いなければならないというデメリットも生じています。

そこで当社は、2008年に全く新しい発想で、接着剤も溶剤も不要なサポート治具：Shin-Etsu TWSSグリップリングタイプを開発。グリップリングと自己粘着フィルムで薄化ウエハーを固定するタイプを発表しました。

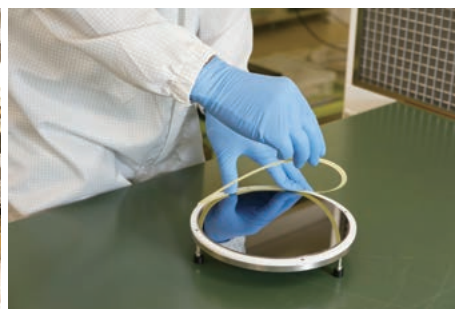
当初、このTWSSグリップリングタイプは、接着剤、溶剤、そしてウェットプロセスの設備が不要ということで市場からは画期的との評価を得ることができました。しかしながら、その後、外形サイズが大きくなることでスループット^{*}が悪くなること及びグリップリング自体の嵌合装置と解除装置が必要となる新たな課題ができました。

※スループット：処理能力

嵌合装置と解除装置のいらない シンプルなサポート治具

そこでこれらの弱点を改良したガラスエポキシ樹脂の支持体と粘着性エラストマーを用いたShin-Etsu TWSSディスクタイプ&リングタイプを開発しました。これらのTWSSは極薄化ウエハーに容易に貼り付けることができ、またTWSSをしならせることにより小さな負荷で剥がすことを可能としました。更にはこれらTWSSを貼り付けても外径はほとんど変わることがないためスループットも低下しません。尚、ディスクタイプはウエハー全体を面で支え、リングタイプは外周だけを支えるタイプです。これらは、お客様の用途・プロセスにより使い分けを行っています。

小田嶋「それまで材料の全てを自前で賄うことにこだわっていましたが、支持体を再検討し、電子回路基板に用いられているガラスエポキシ樹脂を採用すること



TWSS剥離方法：TWSSをしならせることで剥離できます

で、開発が一步前進しました」

若林「ディスクタイプとリングタイプは価格がリーズナブルで、現有の装置に導入することができるため、お客様の極薄ウエハーの開発段階で使われることが多くあります。このTWSSディスクタイプ&リングタイプが極薄ウエハー製造プロセスの確立に寄与することができればと思っています」

小田嶋「リングタイプの開発にあたっては、強く固定され且つ剥がしやすいという、相反する特性を求めて、粘着性エラストマーの自社開発、その位置精度や寸法を繰り返し検討してこれらの絶妙なバランスを見いだしました。最初は苦労しましたが、現在はお客様の要望に応えることができています」

バリエーションを増やし、 用途の拡大へ

現状は、洗浄やレーザーマーキング、金属成膜などの工程に採用されていますが、さらに使用できるプロセスを増やすための開発を進めています。

若林「採用実績は上がってきましたが、業界での認知度はまだ高くありません。ウェットプロセスなどの装置の導入が不要となるこの新しいコンセプトと当社にしかない技術・製品を広くアピールしていきたいと考えています。また、極薄のウエハー以外の素材に適応する治具としての可能性も追求していきたいと考えています」

小田嶋「お客様のプロセスに合わせて、粘着性エラストマーの配合のバリエーションを増やし、機能を向上させ、さらに採用実績を増やしたいと思います」

樹脂配合技術の得意分野を生かし、全く新しい発想・機構で、半導体ウエハーの製造プロセスに採用されたShin-Etsu TWSS。今後もお客様の工程合理化に貢献できればと考え、開発を進めます。

Corporate governance

コーポレート・ガバナンス

当社グループは、コーポレート・ガバナンスの充実が経営の基本であることを認識し、経営の意思決定の迅速化や経営の透明性の確保、内部統制機能の強化などを行い、株主の皆様をはじめお客様や従業員などの立場に立って、企業価値の増大を図ることをコーポレート・ガバナンスの基本的な方針としています。

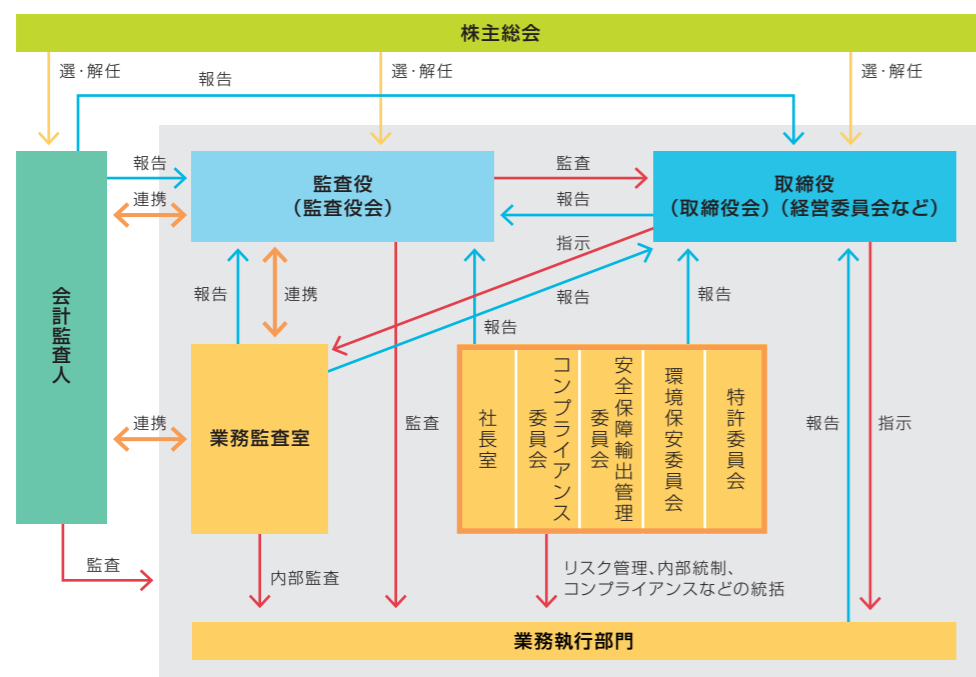
コーポレート・ガバナンス体制

当社は、監査役制度を採用し、取締役会と監査役会の2つの機関によって業務執行に関する監督及び監査を重層的に行っています。機能的かつ有効な経営監督機能及び客観性、中立性を確保した監査機能を実現するために、取締役には経営能力に優れた業務執行の専門家及び監督能力に優れた社外取締役を、また、監査役には社外監査役を含む監査能力に優れた人材を中心に、それぞれ配置しています。

経営の意思決定と業務の執行・監督

取締役会は、経営上の重要な意思決定を行うとともに、取締役の職務執行を適切に監督しています。取締役会はうち2名が社外取締役です。社外取締役は、企業経営者及び会計・税務の専門家として長年にわたる豊富な経験と高い見識を有しており、大局的な観点から当社の経営に対して客観的かつ適切な監督を行っています。

当社グループのコーポレート・ガバナンス体制



社長室
全社的課題・リスクを総括し、管理方針や施策、全社の状況把握及び措置を実施します。また、重大な異常事態発生時の連絡窓口として、関係部門と連携し対応します。

コンプライアンス委員会
コンプライアンスの方針・施策および状況把握に関する事項

安全保障輸出管理委員会
輸出管理法令の遵守に関する事項

環境保安委員会
環境保安、防災管理及び労働安全衛生に関する事項

特許委員会
産業財産権に関する事項

監査体制

監査役監査については、監査役3名が監査役会を構成し、業務執行から独立した立場で監査を行っています。監査役は経営監視機能として、取締役会その他の各種会議に出席するほか、監査役会を必要に応じて開催し、各監査役からの報告をもとに監査に関する重要な事項について協議しています。

内部監査については、業務監査室が合法性、合理性、効率性の観点で、管理・運営の仕組みと業務の執行状況を監査しています。

会計監査については、監査法人により四半期ごとにレビューまたは監査を受けるとともに、適宜、会計面のアドバイスを受けています。

監査役監査、内部監査及び会計監査は、相互協力、相互連携のもとに情報交換などを密に行い、監査の充実に努めています。

親会社との関係について

当社の親会社である信越化学工業株式会社は、当社発行済株式総数の52.6%（自己株式を控除）を保有する支配株主です。当社は事業活動において自立性を保っており、また、親会社から原材料の購入などを行っていますが、取引においては市場価格に基づいて取引条件を適正に決定しています。

リスク管理ならびに内部統制及びコンプライアンス体制の整備・推進

当社グループは、リスク管理が企業の持続的成長のための重要課題であるとの認識のもと、企業グループ全体のリスク管理に注力し、社長室がグループ全体の重要リスク対策のモニタリングを行っています。また、内部統制システムの構築、整備及び運用が重要な経営の責務と位置づけ、より適切で効率的な内部統制システムの整備運用に努めています。

さらに、当社グループは、企業が社会の一員として信頼を得るためには「法令等の遵守はもとより、社会人として求められる価値観・倫理観も尊重して誠実に行動すること」が不可欠との考えを基本にコンプライアンスの徹底を図るとともに、反社会的勢力との関係を遮断しています。

情報開示体制

当社グループは、常にコーポレート・ガバナンスの充実及び経営の透明性の確保に心がけるとともに、株主・投資家の皆様への情報開示に関しては、金融商品取引などに関する関係法令及び東京証券取引所規則に基づいた、公正かつ適時・適切な情報開示に努めています。

情報開示体制については、「情報開示規程」を定め、「情報開示委員会」を設置し、社内に周知徹底を図るとともに、「情報開示責任者」を中心に、社長室（IR担当・広報担当）、経理部及び法務部など関係部門が連携する体制を整え、機動的かつ速やかな情報開示に努めています。

株主・投資家とのコミュニケーション

株主・投資家の皆様に事業状況を説明する機会として、期末及び第2四半期の決算発表時にアナリスト・投資家・メディア向けの説明会を開催しています。また、株主・投資家の皆様に対する迅速かつ公平な情報開示手段としてウェブサイトを活用し、ニュースリリースや決算短信をはじめ、決算説明会資料、アニュアルレビュー、株主総会の招集通知、決議通知などによる情報提供を行っています。

「コーポレート・ガバナンスに関する報告書」については、当社ウェブサイトをご覧ください。なお、コーポレート・ガバナンスコード対応のため、12月までに更新・発行を予定しています。

・ <http://www.shinpoly.co.jp/company/corporate.html>



To customers

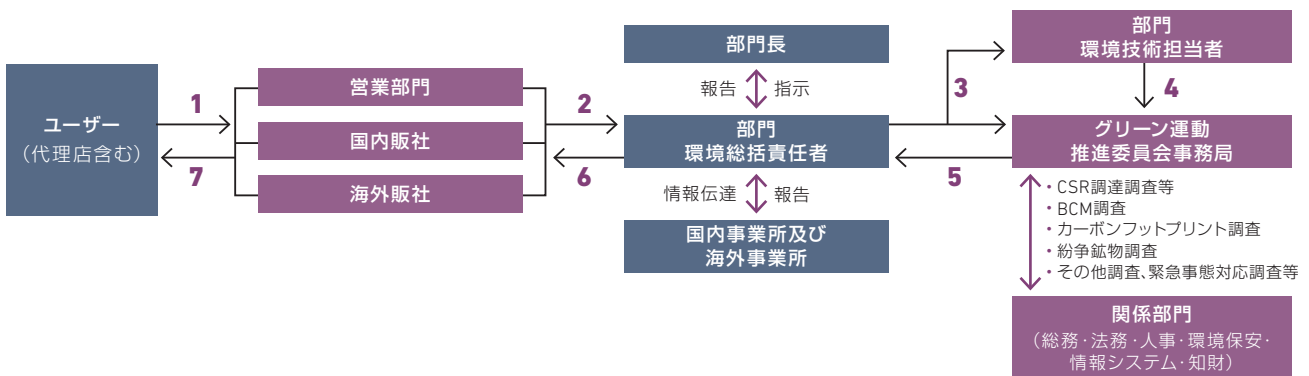
お客様への対応

信越ポリマーグループはお客様及び製品含有化学物質管理規程の要求事項に対し、海外拠点を含む全グループを一元管理する「グローバル環境コミュニケーションシステム」を構築し、対応しています。また、お客様からの環境品質システム、CSR調査及びBCM調査など全社に渡る事項に対しても本システムを運用して対応しています。



グローバル環境コミュニケーションシステム

- 1 「信越ポリマーグループ環境管理責任者」を定め、同責任者は製品環境品質に係る顧客要求事項に対して当社グループを代表します。
- 2 各部門に「環境総括責任者」と「環境技術担当者」を定め、同責任者・担当者は部門の製品環境品質に係る事項を統括します。
- 3 顧客へのグリーン調達調査回答書、不使用保証書、変更管理確認書、分析データ等の提出は、グローバル環境コミュニケーションシステムに定めるルールに従って行います。
- 4 「グリーン調達基準」、「製品含有化学物質管理基準」に従い、環境配慮を推進している仕入先様から、環境負荷の少ない資材（原材料・部品・包装材料等）を購入することとします。
- 5 顧客からの人権・労働、安全衛生、環境、公正取引・倫理、品質・安全性、情報セキュリティ、社会貢献等を内容とする「CSR調達調査（リスクマネジメント調査を含む）」等に対しても、本システムで対応しています。



信越ポリマーグループ紛争鉱物対応方針

信越ポリマーグループは紛争鉱物に関して以下の表明をいたします。

- ・信越ポリマーグループは、紛争鉱物に関する米国金融規制改革法の趣旨・目的に賛同いたします。
- ・信越ポリマーグループは、これら紛争に関わる鉱物を使用する原材料、部品、製品を調達することにより、人権侵害や環境破壊に加担する意思はありません。
- ・信越ポリマーグループは今後も、お客様やビジネスパートナーの皆様、業界団体と連携を取りながら、加担回避のための取り組みを進めて参ります。
- ・信越ポリマーグループが調達する原材料、部品や製品にこのような紛争鉱物が使用されていることが判明した場合、必要な措置を速やかに講じます。

shupua



ガラスのような透明度の高いシリコン製品『shupua (シュプア)』

『shupua』は、信越グループとして今までになかった、高透明で高品質のシリコン製品を展開するために立ち上げたブランドです。日本一のシリコン素材メーカーである信越化学工業株式会社が素材を提供し、高いシリコン加工技術を有する弊社が国内で生産しています。今では『shupua』ブランドとして、コップ、グラス、華、蕾（カラーバリエーションを加えて20種類）を当社が運営する『shupua』サイトでWeb販売しています。

<商品仕様>

1. 商品名 『shupua』
2. 材質 シリコン
3. 生産国 日本

shupua (シュプア) ※ 商標申請中

シリコンの柔らかいイメージを表現したものであり、「シュッ」と縮んだあと「ブアッ」と戻る時の「音」に由来します。

『shupua』サイト
トップページ



『shupua』にかかわっている業務のみなさん

営業本部業務グループ

佐藤 千枝

※ 写真後列右側

ショップ名：shupua

ショップアドレス：http://www.shupua.com/

ショップ担当：信越ポリマー株式会社

開店：2014年11月28日

Webサイトはお客様とかがかわることができる最初の窓口です。特にトップページの第一印象は記憶に残るものですので、季節に合ったデザインを楽しんでいただけるように工夫しています。また、『shupua』は誕生してから日が浅く、お客様からいただいたたくさんのご要望や時には厳しい意見はより良い製品を作り上げていくための貴重なご意見として関係者一同が真摯に受け止め、今後もお客様の生活を豊かにできる製品をお届けしていきたいと思ひます。

特長

1 ガラスのような高透明のキッチンウェア

ガラスのような高透明感がありながら、耐熱性や強度に優れています。



2 温度が伝わりにくい

冷たい飲み物や熱い飲み物を入れても、持つときに冷たさや熱さを感じず、氷を入れても溶けにくく、結露もしづらい仕様です。



3 変形可能な形状

柔らかいため、適度な力を加えると形状を変形させることができます。何かを注ぎ入れるときや、育児や介護のときにもガラスのグラスではできなかった使い方が可能です。

4 割れない

落として割れることを気にせず、また、すべりにくいので、インドアでもアウトドアでも使えます。

Together with employees 従業員とともに

信越ポリマーグループは安全と環境保全が企業活動の基盤であり、経営の最重要課題の一つであると考え、労働災害ゼロ、環境事故ゼロを目指し、人と環境に優しい職場を実現するための活動を積極的に進めています。また、ワーク・ライフ・バランスへの支援や個々の従業員が健康でスキルアップ等が図れる働きやすい環境づくりに取り組んでいます。



人権尊重

● 人権啓発活動

当社グループは基本的人権の尊重をもとに、人種、性別、学歴、障がい、出身地、思想等を理由とした不当な差別を排除しています。取り組みの一環として全従業員を対象に人権啓発研修を実施し、同和問題の理解及びセクシャルハラスメント・パワーハラスメント防止に関わる基本的人権の擁護活動を行っています。

● 児童労働・強制労働の排除活動

当社グループは労働関係法令及び国際的な規範に準じ、すべての国、地域において児童労働・強制労働を禁止しています。海外を含めた全てのグループ会社を調査し、児童労働・強制労働が無いことを確認しています。

雇用の現状

単独及び連結社員数の推移

(単位：人)

年度末	単独人員	連結人員
2010	603	4,090
2011	595	3,665
2012	594	3,547
2013	590	3,628
2014	608	3,962

※ 社員数は就業人員数。

役職登用状況 (信越ポリマー単独 2014年度末)

(単位：人)

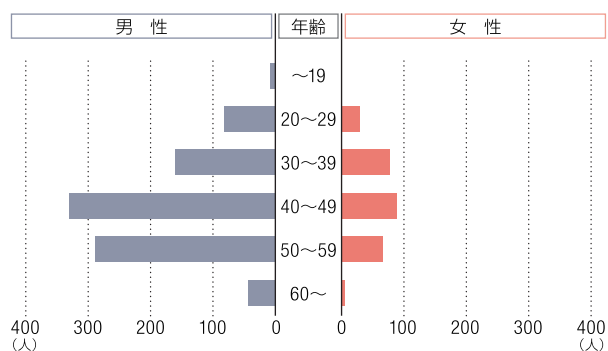
年度末	管理職 (社員6級以上)		役員	
	男性	女性	男性	女性
2010	268	3	13	0
2011	250	3	14	0
2012	248	4	15	0
2013	245	4	17	0
2014	251	4	16	0

新卒採用状況 (信越ポリマー単独)

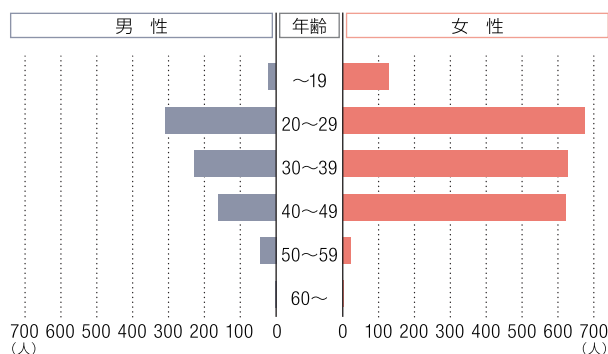
(単位：人)

年度	大学卒		短大・ 専門学校卒		高校卒他	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
2013年4月入社	1	1	0	0	0	0
2014年4月入社	6	0	0	0	0	0
2015年4月入社	6	2	0	0	2	0

労働力分布 性別・年齢層（国内グループ会社）



労働力分布 性別・年齢層（海外グループ会社）



人事制度

信越ポリマーの人事制度は成果主義を基本としています。一般職層は主に成果に直結するコンピテンシー^{*}の伸長度合が評価の対象とされ、管理職層では成果責任に基づく業績のみが評価の対象となります。人事評価内容の記録はデータベース化され、公正性、客観性、透明性を確保した制度になっています。

^{*} 職務で一貫して高い業績を出す人に共通して見られる行動特性のこと。

働き方の支援

信越ポリマーでは次世代育成支援対策推進法に基づき行動計画を作成し、社員全員が働きやすい環境づくりに取り組んでいます。

● 育児・介護休業制度

信越ポリマーでは育児・介護休業取得者の復職後のワーク・ライフ・バランスを充実させるため、短時間勤務や個人の希望に則した制度を導入しています。育児休業制度については累計で28名が利用し、この一年間では3名が利用しました。

2010年10月には育児支援として安心して育児に専念できるよう、育児休業期間を旧制度ではお子さんが「1歳6カ月になるまでの期間」としていたものを、新制度では「1歳6カ月到達以降の最初の4月30日までを限度」に取得できるようにしました。

今後も社員が仕事と子育てを両立させることができ、社員全員が働きやすい環境をつくることにより、全ての社員が能力を十分に発揮できるような制度の導入に取り組んでいきます。

産前産後休業（産休）、育児休業、介護休業の状況

	2012年度	2013年度	2014年度
産休取得者数（人）	2	2	3
育児休業取得者数（人）	2	2	3
うち男性の育児休業取得者数（人）	0	0	0
うち女性の育児休業取得率（%） （取得者数/出産者数×100）	100	100	100
介護休業取得者（人）	0	0	0

※ 本データの対象組織は信越ポリマー社単独です。

● 従業員支援プログラム（EAP）

国内グループ会社では従業員とその家族が心も身体も健康に過ごせるようサポートする「従業員支援プログラム（EAP）」を導入しています。フリーダイヤルやメールでプライバシーを守りながら、各分野の専門化がメンタルヘルス、健康、育児、介護、法律、金融等の相談を受け付けています。また、セクシャルハラスメント相談窓口も設けられています。

メンタルヘルス、健康管理への意識の高揚を図るため、社内LANを利用し定期的に健康促進に役立つ情報を配信しています。

従業員とともに

● 障がい者雇用状況

国内グループ会社で障がい者を積極的に雇用し、法定雇用率を上回っています。

	2012年度末	2013年度末	2014年度末
障がい者人数 (人)	14	15	15
障がい者雇用率 (%)	1.99	2.22	2.25

※ 本データの対象組織は信越ポリマー社単独です。

※ 民間企業における障がい者の法定雇用率は2013年4月1日より1.8%から2.0%に引き上げられました。

● 再雇用制度

国内グループ会社では2013年4月からの改正高年齢者雇用安定法に沿って、定年退職後の再雇用制度の改定を行い、希望者全員を雇用義務年齢まで再雇用することとしました。再雇用者がこれまで培った知識・技能・経験を活かし、コスト削減や若手への技能伝承等を推し進め、全社員がさらに活躍できるように今後も法令を遵守した制度の策定を行っていきます。

● キャリア申告制度

信越ポリマーでは50歳以上の社員を対象に、継続勤務するための課題や知識等を再認識し、モチベーションの維持向上を図る目的で「キャリア申告制度」の実施を開始しました。また、定年後のマネープランの理解を深めてもらうため、外部講師による「年金セミナー」も併せて実施しています。



● 年次有給休暇の取得状況

	2012年度	2013年度	2014年度
平均有給付与日数 (日)	19.4	19.6	19.6
平均有給取得日数 (日)	9.2	9.4	9.7
有給休暇取得率 (%)	48.0	48.5	49.7

※ 本データの対象組織は信越ポリマー社単独です。

教育研修

信越ポリマーでは全社員または各階層を対象に大学聴講生制度等、多彩なプログラムを用意し、教育・訓練を実施しています。

● 大学聴講生制度

従業員のレベルアップを目的に、1年間職場を離れ、日本大学理工学部の聴講生として専門知識を学ぶ制度です。1か月に1度、聴講生同士の交流も実施しています。1962年にスタートし、これまでに21名が対象になりました。

● ミドルマネジメント研修

課長層として必要不可欠な業績向上のためのマネジメントの考え方や手法を学ぶ目的で、2015年度より信越化学工業株式会社の教育研修機関であるヒューマンクリエイト社主催の階層別研修「ミドルマネジメント研修」(課長層)へ参加しています。



環境保安管理体制

経営目標に掲げられている「ゼロ災」を達成するために、全グループ会社で組織された環境保安委員会で、グループ環境保安方針・目標・計画を策定しています。各事業所では環境保安委員会で決定された統一方針に基づき活動しています。

● 労働災害ゼロを目指して

労働安全衛生マネジメントシステムに基づき、設備や作業のリスクアセスメントを行っています。また全員参加による安全提案、ヒヤリハット活動、危険予知訓練を実施しています。企業文化・風土として「安全」を定着させ、安全教育を充実・レベルアップすることにより常に安全意識が高揚された職場の形成を図り、「ゼロ災」達成を目標としています。

● 2014年の労働災害報告

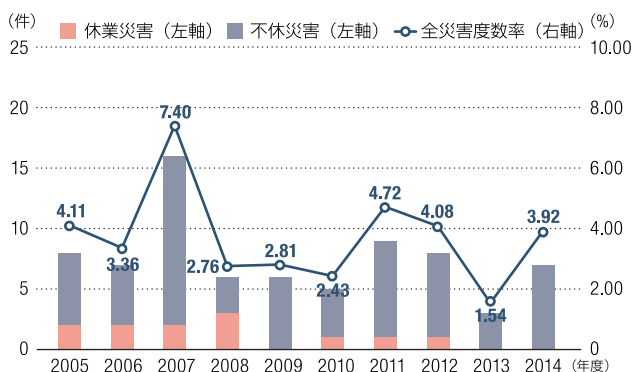
2014年の労働災害発生状況は、国内生産事業所では前年度に引き続き休業災害は発生しませんでした。災害件数は増加しました。海外生産事業所では休業災害件数及び全災害件数ともに減少しました。危険予知不足、安全意識

● 環境保安監査

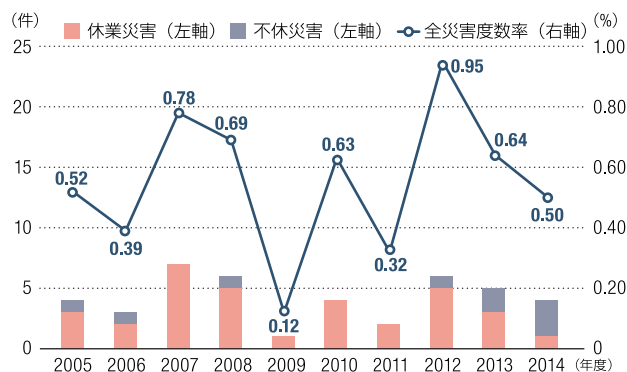
各事業所の環境保安活動が確実に実施されているかを確認するため定期的に環境保安監査を行っています。監査では関連法令の遵守状況や環境保安管理活動の進捗を確認しています。2014年度の監査では、特に重大災害の可能性のある設備への対応とゼロ災達成に向けた効果的な安全教育の実施を重点課題として行いました。

の欠如は、ほとんどの災害の発生原因となっており、危険予知トレーニング(KYT)を推進することにより危険に対する感性を磨き、安全意識の向上を図ることが「ゼロ災」達成の重要課題となっています。

労働災害発生件数と度数率の推移（国内生産事業所合計）



労働災害発生件数と度数率の推移（海外生産事業所合計）



安全・労働環境に係る受賞

2014年7月、児玉工場は安全衛生水準が優秀で他の模範であるとして、埼玉労働局長奨励賞を受賞しました。



局長奨励賞表彰式

2014年11月、児玉工場の植竹健智さんが埼玉労働基準協会連合会の熊谷地区優良労働者表彰を受けました。



優良労働者表彰

Together with local community 地域社会とともに

信越ポリマーグループは、「地域社会との共存を図る」との考えに基づき、安全衛生、地域とのコミュニケーション、人道・災害活動など、環境保全活動に取り組んでいます。また、これらの実施状況については、広く外部に情報を公開していきます。



安全衛生

● 熊谷労働基準監督署などが児玉工場を巡視

毎年10月に実施される「全国労働衛生週間」では、各地において模範となる事業所を各社が訪問する巡視が行われます。今回、児玉工場が埼玉労働局長賞の奨励賞を受賞するなど、工場の取り組みが評価され、当社グループの中でも初めて巡視事業所に選ばれました。当日は、熊谷労働基準監督署、熊谷労働地区労働基準協会、児玉商工会の代表をはじめ、一般企業の担当者など17名が児玉工場を訪問されました。菅野工場長から児玉工場の役

割、製品について、新井マネジャーから児玉工場の労働安全衛生管理活動やOHSASの導入前後における災害数の減少などについて説明し、その後、2班にわかれ約1時間にわたって巡視が行われました。最後の質疑応答では、工場としてどのように健康診断の所見をフォローしているのかなど、従業員が健康に働く環境整備について質問を受けました。



児玉工場がシリコーンと他素材の複合化技術で価値ある製品を作り続けているなど、工場の概要について説明



工場内見学の様子

● 献血活動

国内外の拠点において献血活動を行い、今年は4拠点で202名が参加しました。実施日と献血した人数は次のとおりです。

東京工場	25名
児玉工場	12名
しなのポリマー(株)	34名
Shin-Etsu Polymer (Malaysia) Sdn. Bhd.	131名



Pusat Darah Negara (国立の血液バンク)の協力を得て行われたShin-Etsu Polymer (Malaysia) Sdn. Bhd.での献血



しなのポリマー(株)での献血は献血車にて

地域とのコミュニケーション

● 人道災害活動

当社グループでは、国内外の各事業所において、世界の国々の人道支援や災害救助活動に努めています。

・蘇州信越聚合有限公司

旧正月前の2月、同社の党支部は会社近くの養老院を訪問し、入所している皆さんに毛布を寄付しました。昨年に続いて2回目の訪問です。



養老院前にて

・Shin-Etsu Polymer America, Inc.

ネパール国にアメリカ赤十字社を通して\$1,000を寄付しました。

・Shin-Etsu Polymer India Pvt. Ltd.

社内で寄付金を募り、集まったお金で初めて地元小学校に制服15着を寄付しました。

● 職場体験の受け入れ

各生産拠点では、地元の生徒たちの職場体験実習の場を提供しています。今年は、3拠点で計24名を受け入れられました。

東京工場	7名
しなのポリマー(株)	4名
新潟ポリマー(株)	13名



新潟ポリマー(株)にて、糸魚川東小学校のみなさん

● 工場見学

各生産拠点では、工場見学の受け入れを行っています。今年は、2拠点で計220名以上を受け入れました。

東京工場	21名
蘇州信越聚合有限公司	約200名

● 美化活動

各生産拠点では、工場周辺の美化活動を実施し、3拠点で232名が参加しました。

東京工場	15名
児玉工場	14名
しなのポリマー(株)	203名



東京工場では、月1回の実施で、毎回45Lのゴミ袋3つくらいのゴミが収集されます



児玉工場は、「児玉工団地クリーン作戦」として活動



第14回エコウォーク「クリーン塩尻」大作戦に参加したしなのポリマー(株)の従業員

環境とともに

信越ポリマーグループでは環境基本方針に基づき、地球温暖化対策、省資源有効利用対策、環境負荷物質の低減対策等を課題としたグループ全社活動「グリーン運動」を実施し、環境負荷の低減による環境保全を展開しています。

環境基本方針

● 基本理念

信越ポリマーグループは、地球環境保全を経営の最重要課題の一つと認識し、その求められている社会的責務を果たすことにより、持続可能な発展をめざした循環型経済社会の構築に積極的に参画します。

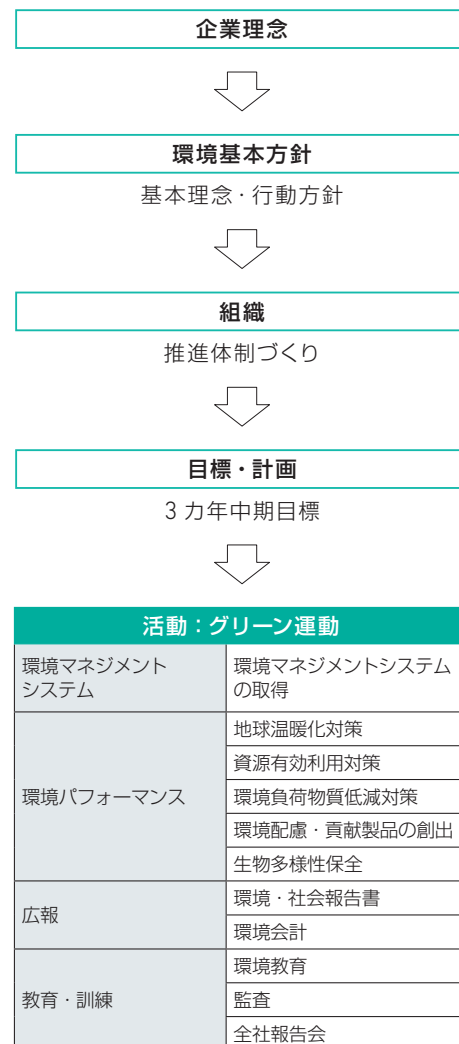
● 行動方針

- 1 環境保全活動を効果的・継続的に推進するための組織・体制を整備します。
- 2 省資源、省エネルギー、廃棄物削減、リサイクル、環境汚染物質の適正管理について、関係する法規制等を遵守すると共に、技術的、経済的に可能な範囲で、より高い目標を定め、環境保全の目的とするところを達成します。
- 3 新製品開発の段階から、調達・生産・使用及び廃棄に至る各段階での環境影響を評価し、環境負荷の低減に努めます。
- 4 事業活動が生態系に与える影響を把握・評価し、その影響を低減することにより、生物多様性の保全と持続可能な利用に努めます。
- 5 環境教育等により、全社員に対して環境基本方針の理解と、環境意識の向上を図ります。
- 6 環境保全活動の実施状況について、広く外部に情報を公開し、地域社会との共生を図ります。

全社活動：グリーン運動

グリーン運動は、「環境マネジメントシステム」の取得、地球温暖化対策や資源有効利用対策等の「環境パフォーマンス」の把握と対応、本環境・社会報告書などの「広報」並びに全社報告会などの「教育・訓練」などになります。この各活動を推進することにより、環境保全・環境経営の推進を図っています。

環境経営体系図



環境マネジメントシステム認証取得状況

当社グループは国内外の全生産事業所でISO9001及びISO14001認証を取得しています。ISO9001取得をもとに、品質管理体制を構築し、お客様にご満足いただける製品を供給しています。また、ISO14001の活動により各国の環境法令への対応や環境に係るトラブルの未然防止を図るとともに改善に取り組んでいます。

事業所名	ISO 14001:2004	ISO 9001:2008	ISO/TS 16949	ISO 13485:2003	ISO/IEC 17025:2005	OHSAS 18001:2007
東京工場	●	●				●
南陽工場	●	●				
児玉工場	●	●		●		●
電子デバイス事業本部 (技術/生産本部、第三開発部)		●				
しなのポリマー(株) 本社 しなのポリマー(株) 塩尻工場 しなのポリマー(株) 宮渕工場 しなのポリマー(株) 長野工場 しなのポリマー(株) 角前サイト	●	●				
しなのポリマー(株) 塩尻工場 電子デバイス事業本部(営業本部) 電子デバイス事業本部(名古屋支店) Shin-Etsu Polymer Europe B.V. しなのポリマー(株) 角前サイト	○	○	●			
しなのポリマー(株) 長野工場 しなのポリマー(株) 宮渕工場	○	●		●		
信越ポリマー(株) 分析センター	○				●	○
信越ポリマー(株) FI事業 新潟ポリマー(株) 新潟ポリマー(株) 西工場	●	●				
浦和ポリマー(株) 栗橋工場 浦和ポリマー(株) 大宮工場	●	●				
蘇州信越聚合物有限公司	●	●	●			●
Shin-Etsu Polymer (Malaysia) Sdn.Bhd.	●	●	●	●		
P.T.Shin-Etsu Polymer Indonesia	●	●				
Shin-Etsu Polymer Hungary Kft.	●	●	●			
Shin-Etsu Polymer India Pvt.Ltd.	●	●	●			
東莞信越聚合物有限公司	●	●				

※ ○印は主事業所のスコープに含まれます。

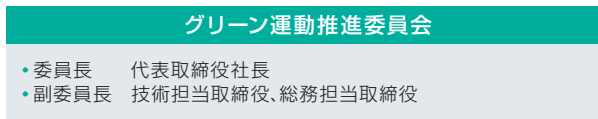
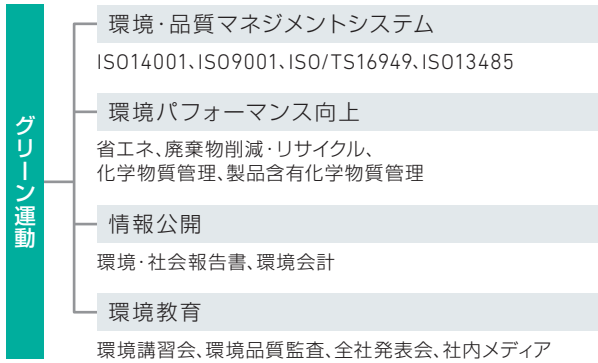
※ 登録証番号、認証機関等のデータについては、当社Webサイトをご覧ください。

※ 2015年3月31日時点での状況となります。

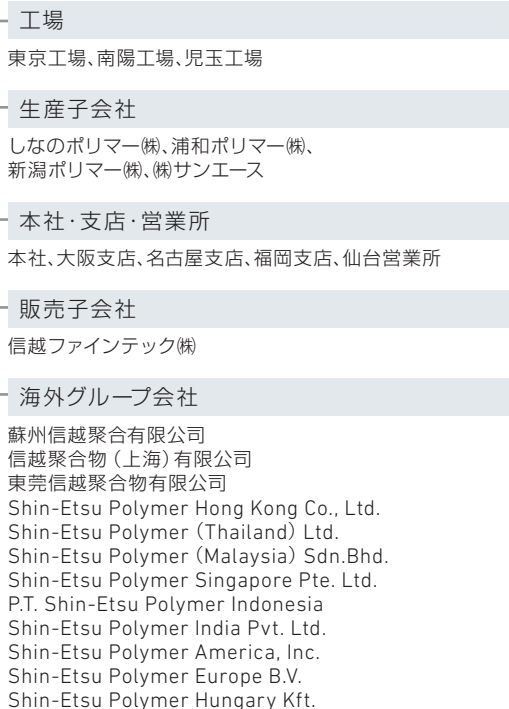
ソニーグリーンパートナー環境品質認定事業所リスト

社名	会社ID	事業所名	Factory Code	初回有効日	監査期限
信越ポリマー(株)	410A	東京工場	FC007742	2005.07.01	2017.08.31
		児玉工場	FC002586	2003.07.01	2017.08.31
		しなのポリマー(株)塩尻工場	FC002584	2003.07.01	2017.08.31
		浦和ポリマー(株)栗橋工場	FC002585	2003.07.01	2017.08.31
		新潟ポリマー(株)	FC007726	2005.07.01	2017.08.31
		蘇州信越聚合物有限公司	FC013450	—	2017.08.31
		大洋集団控股有限公司	FC013237	—	2017.08.31
信越ファインテック(株)	—		FC006553	2007.04.01	2016.05.31

グリーン運動体制 (2015年4月1日現在)



グリーン運動小委員会



信越ポリマーグループ グリーン運動
第4次中期目標 2014年度実績 (2015年4月1日現在)

目標項目		指標
地球温暖化対策	国内生産事業所全体 CO ₂ 排出量の削減	生産重量原単位 (t-CO ₂ /t) 2008年度基準
	国内生産事業所 原油換算エネルギーの削減	生産重量原単位 (kℓ/t) 2011年度基準
	国内非生産事業所 エネルギー使用量の削減	使用面積原単位 (kℓ/m ²) 2011年度基準
	物流に伴う エネルギーの削減	輸送重量原単位 (kℓ/t) 前年度比
資源有効利用	国内生産事業所全体 エミッション率 (※1)	1%未満
	国内生産事業所 エミッション率	1%未満
	国内生産事業所全体 廃棄物排出量の削減	生産重量原単位 (kg/t) 2011年度基準
	国内生産事業所 廃棄物排出量の削減	生産重量原単位 2011年度基準

※1. エミッション率 = (埋立量 + 単純焼却量) / 廃棄物総排出量 × 100 (%)
 ※2. CO₂排出量は各電力会社の排出係数を使用し算出

管理項目		指標
化学物質管理	PRTR届出	届出量
		生産重量原単位 特定第一種指定化学物質
水資源	国内用水排水量	国内生産事業所計使用量 国内事業所計生産重量原単位
		国内生産事業所計使用量 国内事業所計生産重量原単位
化学物質管理	VOC (大気への) 排出量削減	大気への排出量 生産重量原単位
		海外用水使用量 = 排水量
水資源	海外用水使用量 = 排水量	海外生産事業所計生産重量原単位 海外生産事業所計生産重量原単位

	2014年度			2014年度活動	2015年度の課題	2015年目標
	目標	実績	達成度合い			
	6%削減	1.9%削減	未達	LED照明、 高効率空調機の導入や 生産設備の更新投資で 省エネを推進、抑制を図った。	使用電力量の削減継続と ピーク電力を低減する 投資を検討する。	2008年度比 7%削減
	0.6807	0.7102 (※2)				0.6734
	3%削減	増加最大 5.9% 削減最大 27.0%	3事業所達成 3事業所未達			2014年度比 1%削減
	3%削減	11.8%増加	未達	夏季・冬季 省エネルギー対策の実施。	夏季・冬季省エネルギー/ 節電対策の実施 (ビル管理会社と協同)。	2014年度比 1%削減
	0.0791	0.0912				0.0902
	1%削減	4.5%削減	達成	拠点間輸送の車両大型化や モーダルシフト (鉄道・船舶輸送化) 及び拠点の見直し。	さらなる拠点の見直し。 モーダルシフト(鉄道・船舶輸送) の対象品種選定。	2014年度比 1%削減
	0.0133	0.0128				0.0127
	1%未達	0.29%	達成	分別収集/廃棄による 単純焼却・埋立量の削減。	分別収集の徹底。	1%未達
	1%未達	0.67%以下	全6事業所達成			1%未達
	3%削減	8.6%削減	達成	生産量の減少が影響したが、 歩留り改善や梱包方法の 見直し等を実施。	さらなる工程歩留り、 工程の改善。 段ボール等副資材の見直し。	2014年度比 1%削減
	63.2	59.5				58.9
	3%削減	17.8%増~ 33.3%削減	4事業所達成 2事業所未達			2014年度比 1%削減

	2014年度			2014年度活動	2015年度の課題
	管理値	実績	達成度合い		
	1,832kg	1,861kg (29kg増加)	前年比2%増加	原料の代替推進。	適した代替材料の検討。
	0.049kg/t	0.051kg/t	前年比4%増加		
	86kg	71kg (15kg削減)	前年比17%削減		
	28.7t	排出量23.5t (5.2t削減)	前年比18%削減		
	0.766kg/t	0.642kg/t	前年比16%削減		
	552m ³	474m ³ (78m ³ 削減)	前年比14%削減	国内外とも循環水への 切り替えを推進。	生産に係る用水以外に ついて使用量を削減・ 各事業所が立地する 地点における 水リスクの評価を実施。
	15m ³ /千t	13m ³ /千t	前年比13%削減		
	494m ³	417m ³ (77m ³ 削減)	前年比16%削減		
	13m ³ /千t	11m ³ /千t	前年比15%削減		
	189m ³	191m ³ (2m ³ 増加)	前年比1%増加		
	65m ³ /千t	62m ³ /千t	前年比5%削減		

環境配慮・貢献製品の創出

当社グループでは、環境基本方針 (P.24) に基づき、環境負荷を低減するための製品開発に取り組み、環境配慮・貢献製品として社内認定を実施しています。



● 当社環境配慮・貢献製品の概念

環境行動方針に基づき、環境配慮・貢献製品の当社グループにおける概念は次の通りです。

概念

当社グループにおける環境配慮・貢献製品とは、新製品及び既存製品においてお客様の課題を解決するものであり、また社会・環境が必要としているものであること (社会的ニーズ) を確認した上で、7項目について評価を行い、認定されたものを言います。

● 活動のコンセプト

QCDにEcologyの考えを加えて、原材料調達から製造、製品の使用時、廃棄までを範囲として製品の環境負荷低減に取り組んでいます。

従来のQCDからQCD+Eへの変換がコンセプト【環境に配慮】

(Q: Quality 品質 C: Cost 価格、費用 D: Delivery 納期 E: Ecology 環境負荷低減の略)



当社は環境に配慮した製品を開発することにより、
循環型経済社会の構築に貢献するとともに
環境経営が重要視される社会において評価される会社を目指します。

環境配慮・貢献製品の評価基準

環境配慮・貢献製品の評価基準等を示します。

カテゴリー	評価内容
① 省資源	製品の軽量化、原材料の減量化や歩留り改善等が図られた。 また、再生資源等を使用、及び資源の再生利用やリユースが行われた。
② 省エネルギー	製造時エネルギー消費量の削減、各種原単位低減や温室効果ガスの発生量削減等が図られた。 また、製品使用時のエネルギー消費量が削減された。
③ 廃棄物削減	製造工程における廃棄物の発生が抑制された。また、使用後の廃棄物の削減に寄与した。
④ リサイクル	製造工程における廃棄物が焼却、埋立処分ではなく、リサイクル処理等に転換された。 また、製品使用後は再利用、再資源化が可能となった。
⑤ 環境汚染物質	製品は法令、業界等の基準を満たしており、また、製品及び製造工程での環境負荷物質の使用量削減が図られた。
⑥ 安全性	製造工程での爆発やけが等の安全性が改善された。また、製品の使用時においても安全性が向上した。
⑦ 生物多様性の保全	製造工程での水の使用量やVOCの排出量が削減された。また、製品が生物多様性の保全に寄与した。

上記7つのカテゴリーに対して合計97の評価基準を設けています。

また、2013年4月よりこれら評価項目について判定を行い、「環境配慮・貢献製品」の社内認定を開始しています。

事業活動に伴う環境負荷

事業活動に係る環境負荷を正確に把握することは環境保全活動の基本であると考えています。環境保全活動を効果的・継続的に推進するため、これらの数値を確認し、環境負荷の低減を図るためのテーマを策定し活動しています。

INPUT

資源・原油換算エネルギー		()			
	国内生産事業所	国内非生産事業所	海外生産事業所	海外非生産事業所	グループ計
原油換算エネルギー	11,763kℓ (3%減)	301kℓ (6%減)	16,619kℓ (8%増)	39kℓ (9%減)	28,722kℓ (3%増)
水の使用量	474千㎡ (14%減)		191千㎡ (1%増)		665千㎡ (10%減)

原料

- ・PVC (ポリ塩化ビニル)
- ・シリコーンゴム
- ・その他合成樹脂
- ・その他資材

Shin-Etsu Polymer Group

国内生産事業所	国内非生産事業所	海外生産事業所	海外非生産事業所
<ul style="list-style-type: none"> ・信越ポリマー(株) 東京工場 南陽工場 児玉工場 ・生産子会社 しなのポリマー(株) 浦和ポリマー(株) 新潟ポリマー(株) ㈱サンエース 	<ul style="list-style-type: none"> 信越ポリマー(株)本社他 信越ファインテック(株)本社他 	<ul style="list-style-type: none"> 蘇州信越聚合物有限公司 東莞信越聚合物有限公司 Shin-Etsu Polymer (Malaysia) Sdn.Bhd. P.T. Shin-Etsu Polymer Indonesia Shin-Etsu Polymer India Pvt. Ltd. Shin-Etsu Polymer Hungary Kft. 	<ul style="list-style-type: none"> 信越聚合物(上海)有限公司 Shin-Etsu Polymer Hong Kong Co., Ltd. Shin-Etsu Polymer (Thailand) Ltd. Shin-Etsu Polymer Singapore Pte. Ltd. Shin-Etsu Polymer America, Inc. Shin-Etsu Polymer Europe B.V.



蘇州信越聚合物有限公司

OUTPUT

社会へ		環境へ				
		()				
		国内生産事業所	国内非生産事業所	海外生産事業所	海外非生産事業所	グループ計
<ul style="list-style-type: none"> ・電子デバイス 入力デバイス ディスプレイ関連デバイス コンポーネント関連製品 ・精密成形品 OA機器用部品 シリコーンゴム成形品 半導体関連容器 キャリアテープ関連製品 ・住環境・生活資材 ラッピングフィルム プラスチックシート関連製品 機能性コンパウンド 塩ビパイプ関連製品 外装材関連製品 ・その他 建築・店舗設計・施工 その他加工品 	CO ₂ 排出量	25,993t-CO ₂ (3%減)	606t-CO ₂ (6%減)	36,537t-CO ₂ (8%増)	79t-CO ₂ (17%減)	63,215t-CO ₂ (3%増)
	廃棄物	総排出量	2,179t (1%減)		2,062t (5%増)(※)	4,241t (1%増)
		リサイクル量	2,173t (2%減)			
		単純焼却量	5.96t (26%増)			
		埋立量	0.45t (221%増)			
		エミッション率	0.29% (0.07ポイント増)			
	排水量	417千㎡ (16%減)		191千㎡ (1%増)		608千㎡ (11%減)
	PRTR排出量 (対象物質の届出量)	1.9t (6%増)				

※当社グループの基準による集計値です。

地球温暖化対策

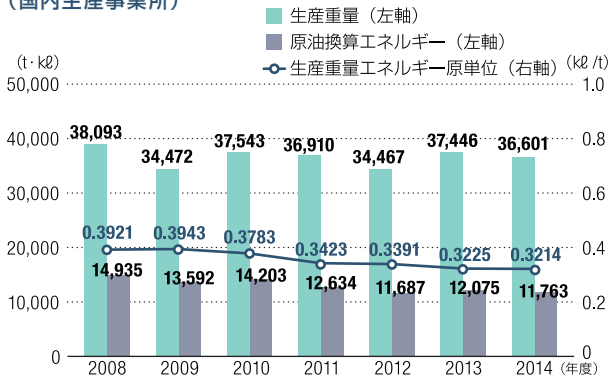
当社グループは地球温暖化対策として、国内外生産事業所において省エネを進めています。また、生産における原油換算エネルギーとCO₂排出量の把握と同時に、昨年よりサプライチェーン全体のGHG：スコープ3の算出を開始しました。

● 生産重量エネルギー・CO₂排出量原単位推移

生産重量エネルギー原単位推移（国内生産事業所）

国内生産事業所の2014年度原単位は、2008年度0.3921k₂/tに対し0.3214k₂/tと約18%減の結果となりました。これからも高効率設備への投資等を進めていきます。

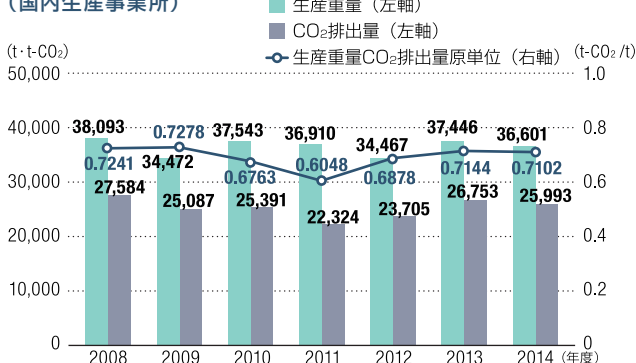
原油換算エネルギー及び生産重量エネルギー原単位推移（国内生産事業所）



生産重量CO₂排出量原単位推移（国内生産事業所）

国内生産事業所の2014年度原単位は、2008年度0.7241t-CO₂/tに対し0.7102t-CO₂/tと1.9%減の結果となりました。LED照明や新規設備の導入など積極的な省エネ対策を進めエネルギー原単位を18%削減したものの、生産重量の減少や排出係数の影響などがあり、CO₂排出量原単位は1.9%の削減となりました。今後もこの環境は継続するものと予想されますが、さらなる省エネ施策を進め、2015年度には2008年度比7%削減の目標達成を目指します。また、電気需要平準化への対応も検討していきます。

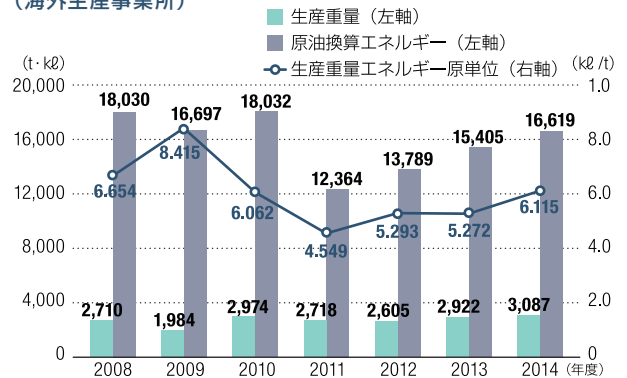
CO₂排出量及び生産重量CO₂排出量原単位推移（国内生産事業所）



生産重量エネルギー原単位推移（海外生産事業所）

海外生産事業所の2014年度原単位は、2008年度6.65k₂/tに対し6.115k₂/tと約8%減の結果となりました。これからも海外現地での法律や動向を捉えながら改善を進めていきます。

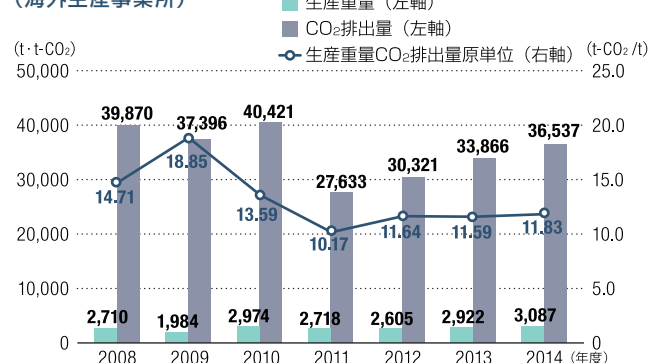
原油換算エネルギー及び生産重量エネルギー原単位推移（海外生産事業所）



生産重量CO₂排出量原単位推移（海外生産事業所）

海外生産事業所の2014年度原単位は13.44t-CO₂/tと、2008年度14.71t-CO₂/tに対し約9%減の結果となりました。これからも海外現地での法律や動向を捉えながら改善を進めていきます。

CO₂排出量及び生産重量CO₂排出量原単位推移（海外生産事業所）



● 国内生産事業別エネルギー及びCO₂排出量詳細(2014年度)

	契約電力 (kW)	年間電力使用量		年間原油換算エネルギー		原油換算エネルギー小計 (kℓ)	原油換算エネルギー事業者総計 (kℓ)	事業者等の区分	エネルギー管理指定工場	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)		
		千 kWh	原油換算エネルギー (kℓ)	燃料種別	原油換算エネルギー (kℓ)							
信越ポリマー(株)	東京工場	2,500	11,873	2,964	都市ガス (13A)	779	3,743	6,189	特定事業者	第一種	7,799	13,615
	南陽工場	660	3,324	827	軽油・LPG	22	849			—	2,449	
	児玉工場	1,600	5,985	1,504	LPG	22	1,526			第二種	3,223	
	本社・支店	—	268	71	—	0	71			—	144	
しなのポリマー(株)	塩尻工場・その他	1,600	5,266	1,328	重油・灯油・軽油	48	1,375	1,669	特定事業者	—	2,826	3,412
	長野工場	381	1,143	294	—	0	294			—	586	
浦和ポリマー(株)	栗橋工場	620	2,757	690	—	0	690	1,067	—	—	1,461	2,239
	大宮工場	—	1,017	254	都市ガス (13A)	124	378			—	778	
新潟ポリマー(株)	東工場	1,600	7,386	1,847	—	0	1,847	2,908	特定事業者	第二種	4,365	6,871
	西工場	780	4,243	1,061	—	0	1,061			—	2,506	
合計			43,262	10,840		995		11,833			26,137	

1. 経済産業省「エネルギーの使用量の原油換算表」による
2. 環境省「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧及び算定省令に基づく電気事業者ごとの実排出係数(2014年12月5日)
3. 契約電力は2015年3月31日現在
4. 電力使用量の原油換算係数は昼間0.257kℓ/千kWh、夜間0.239kℓ/千kWhを採用
5. 都市ガス(13A)の熱量換算係数は、使用ガス業者の規定数値を使用
6. CO₂排出量については経済産業省へ提出した数値を掲載

地球温暖化対策の一事例

● 実施例 太陽光発電パネルの設置

設置場所：児玉工場の第1棟屋上 南西側

仕様：発電出力 48.4kW
(242Wのパネルを200枚)

実績：総発電量 31.247MWh
(2014年7月稼働～2015年3月まで)



廃棄物削減から省エネへ

● ニチバン巻心ECOプロジェクト



プロジェクトに参加し、お礼として頂いた植物の種でグリーンカーテンを作り、省エネに利用

● 温室効果ガスのスコープ3排出量

当社グループでは環境省のガイドラインに基づいて算出を行い、カテゴリー別に昨年と比較を行っています。2014年度のスコープ3排出量は149.5千t-CO₂です。これらカテゴリーごとの把握に基づいて、効果のある取り組みを進めていくことが重要と考えています。

カテゴリー		2013年度 (千t-CO ₂)	2014年度 (千t-CO ₂)	変化率	備考
自社	(スコープ1) 直接排出	4.3	3.2	-25%	省エネを進めています。
	(スコープ2) エネルギー起源の 間接排出	61.4	63.2	3%	海外事業の拡大により増加しました。
1	購入した製品・サービス	49.9	52.6	6%	資材購入が増加しました。
2	資本財	1.6	3.6	124%	積極的な設備投資を実施したため増加しました。
3	スコープ1、2に含まれない エネルギー関連活動	4.0	4.2	5%	省エネを進めています。
4	輸送、配送（上流）	36.2	38.6	7%	資材購入が増加しました。
5	事業から出る廃棄物	2.0	1.2	-40%	廃棄物削減活動により減少しました。
6	出張	1.3	1.6	23%	海外事業の拡大により増加しました。
7	雇用者の通勤	2.8	2.9	4%	大きな変化は有りませんでした。
8	リース資産（上流）	—	—	—	僅少のため対象外としています。
9	輸送、配送（下流）	1.1	10.5	955%	海外事業の拡大により増加しました。
10	販売した製品の加工	—	—	—	該当していません。
11	販売した製品の使用	—	—	—	該当していません。
12	販売した製品の廃棄	31.2	34.4	10%	事業の拡大により増加しました。
スコープ3 小計		130.1	149.6	15%	
合計		195.8	216.0	10%	
割合（スコープ3）		66%	69%		

※ カテゴリー 1から8はサプライチェーンの上流、9から12は下流

● 輸送に係る省エネ活動

国内グループ会社は年間3,000万トンキロ以上の貨物輸送を委託する「特定荷主」として、初年度（2006年度）分より実績報告を行っており、2015年6月に9回目の定期報告を行いました。2014年度の貨物輸送量は3.0%減少しましたが、前年に引き続き、拠点間輸送の車両大型化やモーダルシフト（鉄道・船舶輸送化）及び拠点の見直しを継続した結果、年間CO₂排出量は9.7%減少しました。

2013年度に消費税増税対応・コスト高により車両確保（鉄道コンテナ）が厳しくなり拠点間の鉄道貨物輸送量が減少しましたが、2014年度は運賃及び車両手配方法の見直し改善したことにより、鉄道輸送比率が13.7%（前年比3.4%増）となり、5年度間の平均原単位変化は95.5%（4.5%減）と年平均1%削減目標を上回ることでできました。

貨物輸送に係るエネルギー年次推移

	単位	報告対象年度					前年度比
		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	
年間貨物輸送量	千トンキロ	31,570	27,253	25,911	25,878	25,111	-3.0%
	トン	99,971	93,658	87,285	93,955	88,900	-5.4%
エネルギー使用量	GJ	59,635	51,501	46,288	48,777	44,209	-9.4%
	kℓ	1,539	1,329	1,194	1,258	1,141	
エネルギー消費原単位	kℓ/トン (※1)	0.0154	0.0142	0.0137	0.0134	0.0128	-4.2%
年間CO ₂ 排出量	t-CO ₂	4,042	3,498	3,137	3,315	2,992	-9.7%

※1. 2011年度に原単位をkℓ/千トンキロから変更。過去データもさかのぼり修正しています。

過去5年度間のエネルギー使用に係る原単位の変化状況

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	5年度間 平均原単位 変化
エネルギーの使用に係る原単位	0.0154	0.0142	0.0137	0.0134	0.0128	
前年度比 (%)		92.1	96.4	97.9	95.8	95.5

資源有効利用対策

● 廃棄物削減・リサイクル

第4次中期目標（2012～2014年度）は、「ゼロエミッションの維持・継続」と「生産重量廃棄物排出量原単位を2011年度比3%削減」を目標に掲げて活動しています。

● 廃棄物削減・リサイクルに対する考え方

「廃棄物のリサイクル促進による埋立ゼロ、単純焼却ゼロ」を合言葉に、①廃棄物排出量原単位、②エミッション率を管理指標として、ゼロエミッション（エミッション率1%未満）の達成・維持を目標に活動しています。

● 主な取り組み

ゼロエミッション活動の中心となる廃プラ・リサイクルは、第1にマテリアルリサイクル、第2にセメント原燃料化、第3にサーマルリサイクル（非鉄金属製錬燃料化、発電燃料化等）を採用しています。また、廃棄物処分委託業者の現地視察を定期的に行い、適切に廃棄物の処理が行われていることを確認しています。

● 2014年度の実績

国内事業所

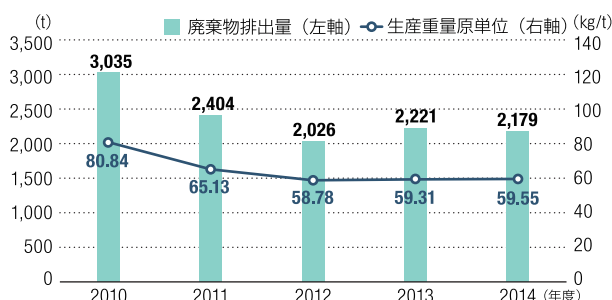
2014年度の廃棄物総排出量は2,179tで、前年に比べ42t減少しました。原因は生産量の減少によるものです。生産重量廃棄物排出量原単位は59.55kg/tとなり、前年度並みとなっています。また、エミッション率は0.29%で、目標1.0%未満を達成しましたが、前年より0.07ポイント増加しました。原因は、廃試薬をまとめて処分したためです。なお、以上の結果は特殊要因で発生した設備廃棄物を除いたもので、それを加味すると廃棄物総排出量は2,421t（242t増）、生産重量廃棄物排出量原単位は66.17kg/t、エミッション率は0.26%となっています。

特別管理産業廃棄物については主に廃酸・アルカリ、廃油であり、中和、焼却等の適正な処理を行っています。

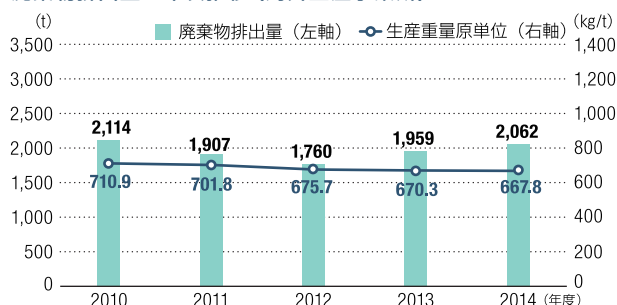
海外事業所

2014年度の廃棄物総排出量は2,062tで、前年に比べ103t増加いたしました。原因は生産量の増加によるものです。生産重量廃棄物排出量原単位は667.8kg/tとなり、前年度と比較して若干ですが低減しました。

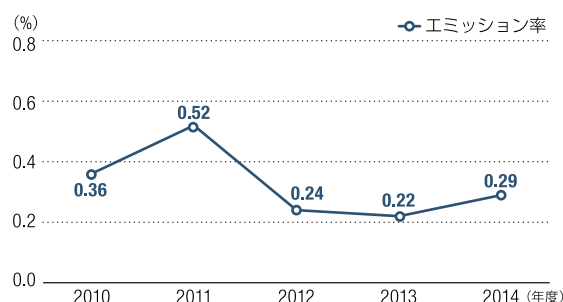
廃棄物排出量の年次推移（国内生産事業所）



廃棄物排出量の年次推移（海外生産事業所）



エミッション率の年次推移（国内生産事業所）



● 容器・包装再商品化委託実績

信越ポリマー(株)

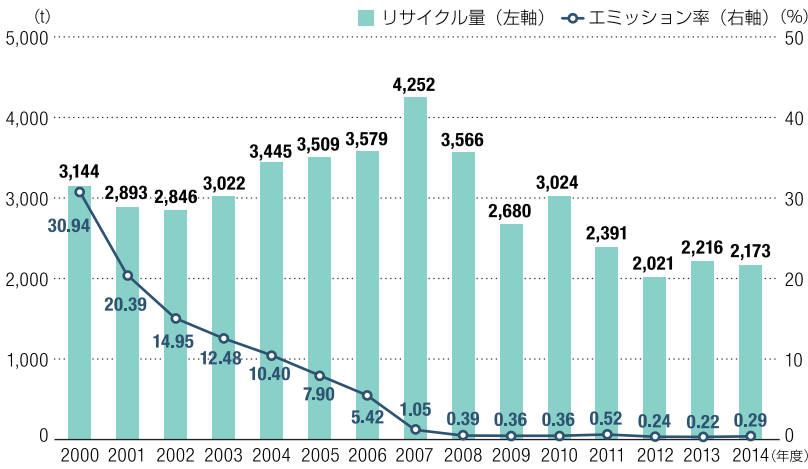
年度	プラスチック製 容器・包装		紙製 容器・包装		再商品化 委託料金 (円)
	委託数量 (kg)	委託単価 (円/kg)	委託数量 (kg)	委託単価 (円/kg)	
2011	20,646	52.0	139	13.0	1,075,399
2012	24,535	49.0	174	12.0	1,204,303
2013	25,835	48.0	128	12.0	1,241,616
2014	24,547	57.0	103	14.0	1,400,621
2015	28,893	47.0	99	13.0	1,359,258

信越ファインテック(株)

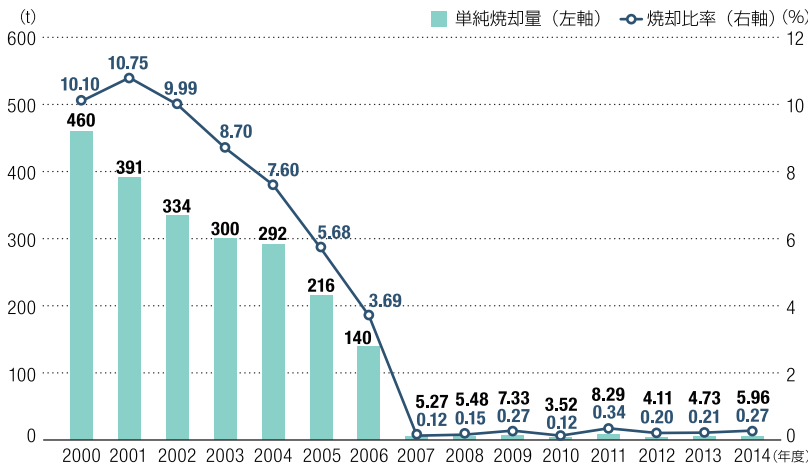
年度	プラスチック製 容器・包装		紙製 容器・包装		再商品化 委託料金 (円)
	委託数量 (kg)	委託単価 (円/kg)	委託数量 (kg)	委託単価 (円/kg)	
2011	665	52.0	0	13.0	34,580
2012	585	49.0	0	12.0	28,665
2013	464	48.0	0	12.0	22,272
2014	321	57.0	0	14.0	18,297
2015	533	47.0	0	13.0	25,051

● リサイクル量・単純焼却量・埋立量推移

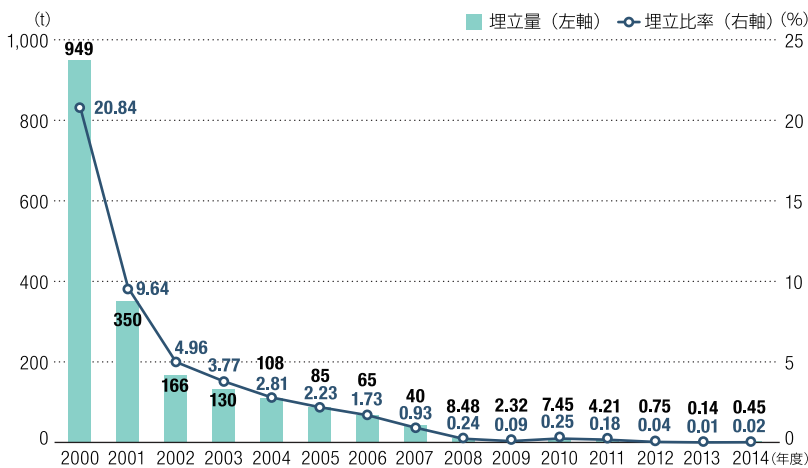
リサイクル量



単純焼却量

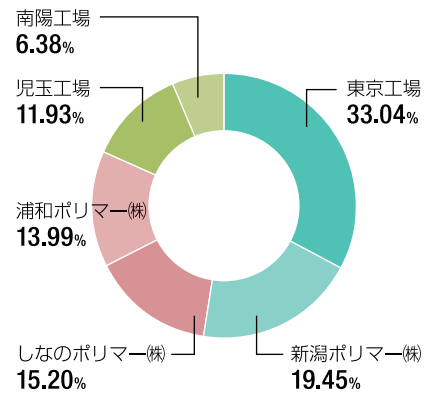


埋立量

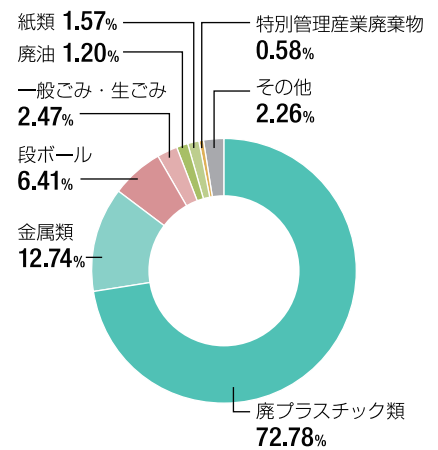


● 廃棄物排出の実態 (2014年度)

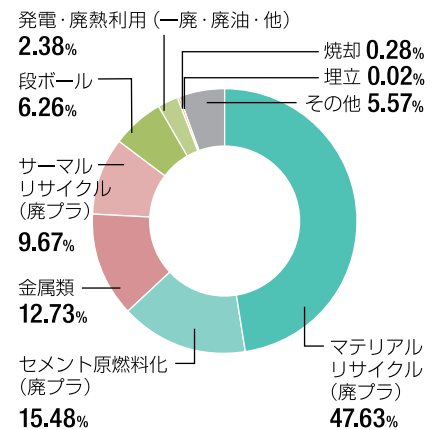
事業所別



分別基準別



処理方法別



化学物質管理

● 製品含有化学物質管理基準

当社グループでは、製品含有化学物質管理規程に基づき、製品含有化学物質管理基準を策定しています。これを基準に製品、購入資材も含めて化学物質の低減を目指しています。

化学物質については、世界各国の化学物質規制情報や

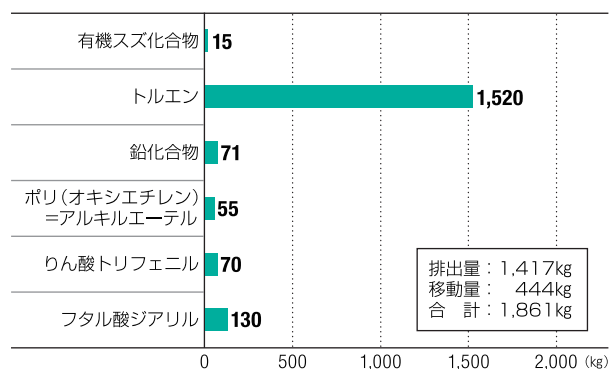
環境影響に関する情報を収集し、また顧客からの要求をもとに当社製品への使用有無の関連性、使用用途、使用実績なども調査し、物質ごとに対応を決めています。さらに、製品中の化学物質の含有量情報も把握し、得られた情報を元に環境負荷低減を進めています。

● 2014年度PRTR届出

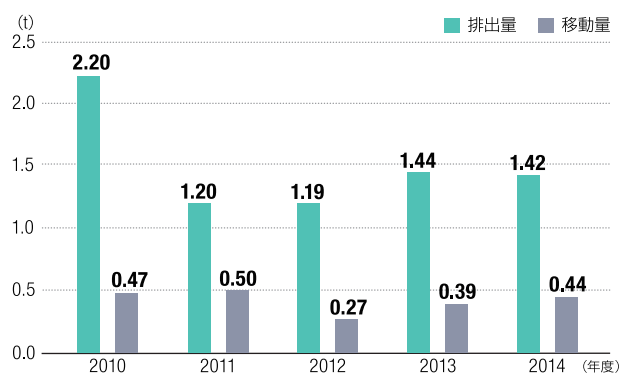
東京工場、南陽工場、しなのポリマー(株)塩尻工場の3事業所が届出を行っています。2014年度は6物質1,861kg(排出量1,417kg、移動量444kg)の届出を行いました。そ

の内、特定第1種指定学物質は鉛化合物(塩ビ製品の鉛系安定剤)71kg(排出量34kg、移動量37kg)の届出を行っています。

PRTR届出実績(2014年度)



PRTR対象物質(排出量と移動量の内訳)



● 2014年度大気へのVOC排出実績

国内生産事業所では、毎年、電機・電子4団体に対して、排出抑制対象20物質の取扱量(t/年)と大気への排出量(t/年)を報告しています。

なお、2014年度のVOCの大気排出量は23.5tで、前年度と比較して5.2t(18.2%)減少しました。

(単位: t/年)

		東京工場	南陽工場	児玉工場	しなの ポリマー(株)	浦和 ポリマー(株)	新潟 ポリマー(株)	合計
施設類型	1.塗装	1.2	0.0	4.1	0.0	0.0	0.0	5.3
	2.接着	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2
	3.印刷	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4.化学製品製造	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5.工業用洗浄	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6.VOC貯蔵	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6施設類型以外		0.0	0.0	9.9	5.3	0.0	2.8	18.0
合計		1.2	0.0	14.2	5.3	0.0	2.8	23.5

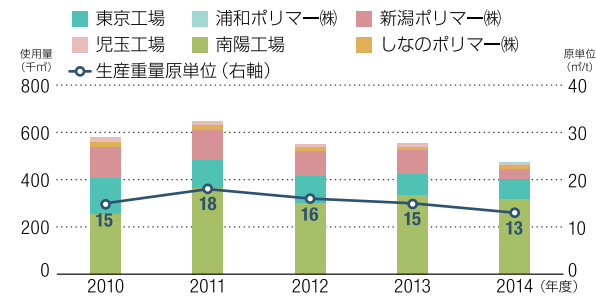
※ エタノール、酢酸ブチル、イソプロピルアルコール、トルエン、メチルエチルケトン、アセトン、メチルイソブチルケトン、キシレン等

生物多様性の保全への取り組み

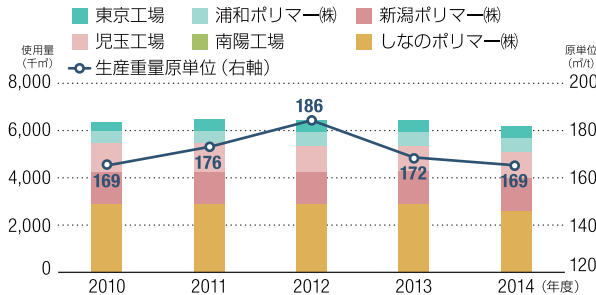
当社グループでは、事業活動が生物多様性の保全に与える影響を低減するため、地球温暖化対策、資源有効利用や化学物質管理などの環境負荷の削減に取り組んでいます。同時に、水資源の有効利用や大気・水質・土壌等の汚染防止対策に取り組んでいます。水資源を有効に利用するため、国内外とも循環水の活用を進めています。

国内生産事業所は、用水使用量・排出量及び循環水使用量を生産重量基準とした原単位の推移でみると減じている

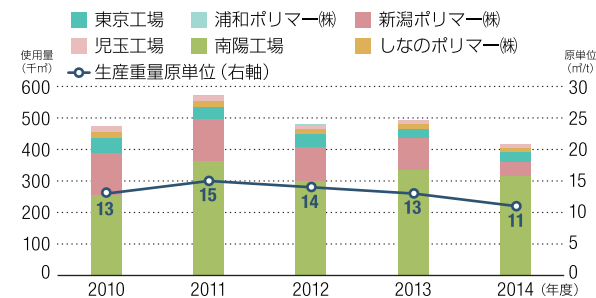
用水使用量推移（国内6事業所）



循環水使用量推移（国内6事業所）



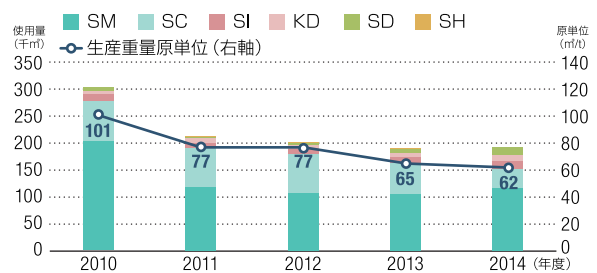
排出量推移（国内6事業所）



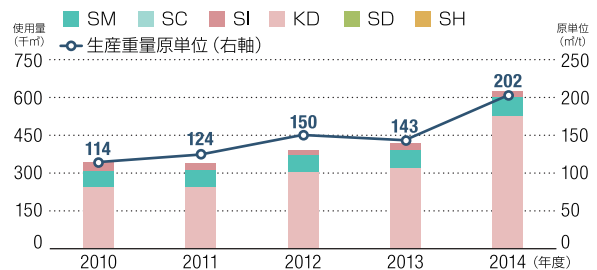
傾向が確認できました。循環水の活用が低減していることへの対応は今後の検討課題ですが、水資源の活用指標としては生産重量原単位で確認し、水資源の有効活用を図ります。

海外生産事業所は、用水使用量・排出量及び循環水使用量を生産重量基準とした原単位の推移でみると循環水は上昇傾向にあり、用水使用量＝排出量は減じている傾向が確認できました。循環水の活用が増加していることが特徴で水資源の有効活用をさらに進めていきます。

用水使用量（＝排出量）推移（海外6事業所）



循環水使用量推移（海外6事業所）※SC、SH、SDは循環水なし



SI : P.T. Shin-Etsu Polymer Indonesia
 SM : Shin-Etsu Polymer (Malaysia) Sdn.Bhd.
 KD : 東莞信越聚合物有限公司
 SD : Shin-Etsu Polymer India Pvt. Ltd.
 SH : Shin-Etsu Polymer Hungary Kft.
 SC : 蘇州信越聚合物有限公司

汚染防止への取り組み

● 大気汚染防止

「大気汚染防止法」で定められた基準を遵守するとともに、必要に応じて自主管理基準を定め、排出量の低減に取り組んでいます。特にVOCについては必要な場合、定期的に排出濃度を測定し、基準以下であることを確認しています。

● 水質汚濁防止

「水質汚濁防止法」で定められた基準に対して、排水の水質分析を自主的に行い、排水基準を満たしていることを確認しています。また、用水使用量の原単位削減や循環水への変更に取り組んでいます。

● 土壌汚染防止

「土壌汚染対策法」に基づいて監視を行っています。また必要に応じて土壌や地下水の分析、調査を実施し、汚染の無いことを確認しています。

環境会計

環境保全コスト

(単位：千円)

分類	主な取組みの内容	投資額	費用額(※)	
1. 事業エリア内コスト	1-1. 公害防止コスト	自動中和装置設置、集塵機清掃点検、ボイラー定期点検、局所排気整備、排水検査、騒音・振動測定、場内排水ピット清掃	63,182	7,664
	1-2. 地球環境保全コスト	熱交換器設置、フォークリフト電動化、空調機のインバーター化、照明設備のLED化、射出成形機の電動化、ブラインド設置	50,973	37,031
	1-3. 資源循環コスト	金属・廃プラスチック類・廃パレット・廃油・廃溶媒・木屑・コピー用紙・PPバンド・原材料空袋の回収・リサイクル、廃プラスチック原料処理	5,005	0
小計		119,160	44,695	
2. 上・下流コスト	製品含有化学物質分析費用、容器包装再商品化委託費用、顧客グリーン購入調査回答業務等	0	6,051	
3. 管理活動コスト	環境・社会報告書発行、ISO14001維持活動、内部監査費用、廃棄物処理業者視察、EMS教育、グリーン運動推進会議、環境保安委員会、合同安全衛生部会、構内緑化管理	0	13,451	
4. 研究開発コスト	半導体搬送容器開発、OA機器用部品開発、車載入力部品開発等	199,565	—	
5. 社会活動コスト	日本赤十字社寄付金、能生中学校・海洋高校相撲後援会寄付金、塩尻玄蕃まつり協賛金、旭3丁目夏祭り寸志、福祉施設寄付金	0	208	
6. 環境損傷防止コスト	該当なし	0	0	
合計		318,725	64,405	

※ 費用額 = 実際コスト - 当該活動を行わない場合のコストで、差額合計 ≤ 0 の場合はゼロとします。

※ 研究開発コストは当社基準により集計したものです。

環境保全効果

環境保全効果を表す指標	単位	年間削減量	
事業エリア内コストに対応する効果	エネルギー使用量	t-CO ₂	605
	廃棄物排出量	t	816
	化学物質使用量	t	0.0
	用紙購入量	千枚	18
	その他	—	0

環境保全対策に伴う経済効果

効果の内容	単位	金額	
収益	千円	18,221	
費用節減	エネルギー費用	千円	14,672
	廃棄物処理費用	千円	3,758
	原材料購入費用	千円	109,509
	副資材購入費用	千円	1,850
	その他	千円	0
合計	千円	148,010	

環境保全活動の歩み

年月	活動内容
1961.09	東京工場に安全衛生委員会設置
1973.07	東京工場に環境保全室設置
1974.06	PCB使用中止
1975.02	東京工場に省エネルギー委員会設置
1980.01	省エネ法施行で東京工場が電気管理指定工場に指定
1983.10	東京工場に5S運動推進委員会設置
1989.05	東京工場に産業廃棄物対策プロジェクトチーム設置
1990.11	環境保安管理規程施行
1991.01	環境保安委員会設置
1992.04	環境保安グループ設置
10	第一回環境保安監査実施
1993.05	オゾン層破壊物質全廃
07	購入原材料のMSDS取得開始
10	水道用硬質塩ビパイプの脱鉛化実施
1994.08	東京工場・ボイラー燃料変更(重油→都市ガス)
1999.01	児玉工場がグループ初のISO14001認証取得
02	廃プラのセメント原料化リサイクル開始
03	顧客グリーン調達調査に初回答
07	東京工場が第一種電気管理及び第二種熱管理指定工場(2006年より第一種エネルギー管理指定工場)に指定
2000.03	グリーン運動研修交流会開催、環境基本方針制定
03	第一回容器・包装再商品化委託契約締結
04	グリーン運動スタート
06	グリーン運動省エネ分科会・リサイクル分科会をスタート
09	PRTR集計システム構築
09	Shin-Etsu Polymer (Malaysia) Sdn.Bhd.が海外事業初のISO14001認証取得
2001.02	東京工場にコージェネレーションシステム導入
04	分析センターがISO17025認定取得
10	第一回「環境報告書」発行(2005年より「環境・社会報告書」)
2002.06	塩ビ系廃棄物の非鉄金属製錬燃料化リサイクルを開始
06	第一回PRTR届出(報告)
11	第一回環境会計公表
2003.08	児玉工場、しなのポリマー(株)、浦和ポリマー(株)がグループ初のソニーグリーンパートナー環境品質認定を取得

年月	活動内容
2003.11	国内全生産事業所が(財)省エネルギーセンターによる省エネルギー診断を受診
2004.08	東京工場が省エネ法に基づく工場現地調査を受審
2005.07	研究開発センター棟に氷蓄熱式空調システム導入
10	グローバル環境コミュニケーションシステムをスタート
2007.06	信越ポリマー(株)が特定荷主に指定
10	顧客CSR調達調査に初回答
2009.03	国内全事業所でゼロエミッションを達成
04	JAMPIに入会、MSDSplus及びAISフォーマットによるREACH情報伝達をスタート
12	高機能製品事業本部及び新潟ポリマー(株)が当社初のBCM(事業継続マネジメント)訓練を実施
2010.07	省エネ法に基づく特定事業者に指定(信越ポリマー(株)、しなのポリマー(株)、新潟ポリマー(株))
09	信越ポリマー(株)創立50周年
2011.04	東莞信越聚合物有限公司設立(ISO14001、ISO9001は社名変更にて継続)
07	省エネ法に基づく特定事業者に指定(浦和ポリマー(株))
07	電力共同使用制限スキーム申請(東京工場・児玉工場・浦和ポリマー(株)と新潟ポリマー(株)東・西工場)
10	インド社ISO14001認証取得
11	インド社ISO/TS16949認証取得
11	東京工場が環境コミュニケーションを開催
2012.07	第1回エコ・プロ推進活動開催
11	復興支援事業のRSチーム発足
12	しなのポリマー(株)長野工場が医療機器の製造業を認可
2013.01	しなのポリマー(株)が塩尻市防火管理協会会長賞を受賞
02	当社グループでWeb販売「ポリビアン」をスタート
04	環境配慮型製品・認定スタート
08	児玉工場が医療機器の製造業を認可
2014.06	東莞信越聚合物有限公司が安全生産標準化三級企業に認定
07	児玉工場が安全衛生に係る埼玉労働局長奨励賞を受賞
07	児玉工場が太陽光発電開始

第三者所感

本報告書に対する第三者からの所感をいただき、当社グループの環境・社会活動をより一層充実させていきます。



「環境・社会報告書2015」についての 第三者所感

上智大学経済学部教授
上妻 義直先生

この所感は、信越ポリマーグループの環境と社会に関する取り組みについて、同グループの「環境・社会報告書2015」を拝見し、関係者とのダイアログを経て作成しています。

1. 「機能」の創造と削減貢献

信越ポリマーグループでは「持続可能で安全・安心な社会の実現」が事業活動の基本的なビジョンです。これは同時に成長戦略の重要な方向性にもなっており、確かな基盤技術と優れた応用展開力で様々な環境配慮製品を世に出してきた実績から見て、きわめて実現性の高いコミットメントであると考えられます。

今年度の特集で取り上げられた「EXELAST™」や「Shin-Etsu TWSS」は、それぞれ「滑りやすい」「固定力があるのに剥がしやすい」という「機能」が特徴的な製品ですが、これらの「機能」は、効果的な応用によって、バリューチェーンにおける削減貢献の可能性を著しく拡大します。まさに、素材の「機能」を柔軟に工夫する樹脂加工メーカーならではの貢献として、こうした「機能」の創造を高く評価したいと思います。

2. スコープ3情報の充実

昨年度から集計・開示が始まった温室効果ガスのスコープ3排出量は、今年度から連年比較形式で表示され、各カテゴリー別に変化率や増減原因分析等に関するコメントも記載されるようになりました。現在は削減に向けた取り組みが一部のカテゴリーでしかコメントされていませんが、集計や対策の立案が困難なバリューチェーンでの環境負荷に正面から向き合おうとする企業姿勢は尊敬に値します。これからも少しずつ改善を

重ねて、将来的にスコープ3排出量をCSRマネジメントの完全な管理下におけるように、さらに努力を継続していただきたいと思います。

3. 労災データの改善

信越ポリマーグループでは、「安全第一に徹する」という経営目標の下、毎年詳細な労働災害報告を開示しています。今年度からは国内生産事業所と海外生産事業所に分けてデータ集計されており、それぞれに休業災害・不休災害・全災害度数率が記載される実に丁寧な構成となっています。しかし、「ゼロ災」達成を重要課題としながらも、それがどの指標を対象とするか明示されていないために、実績の評価は難しいのが実情です。

たとえば、今年度で見ると、国内では2年連続で休業災害が発生せず、海外での発生件数も低下傾向にありました。しかし、不休災害は逆に増加しており、全災害度数率では国内が上昇し、海外は下降しています。今後は「ゼロ災」の定義を明確にして、その趨勢や実績のわかるグラフを工夫するなど、説明方法の改善が望まれます。

4. グリーン運動の範囲拡大

環境マネジメントの中核を占めるグリーン運動はきわめて有効な管理ツールとして評価できます。しかし、取り組みのバウンダリーが国内に限定されているのはとても残念な状況です。海外生産事業所の環境パフォーマンスが改善していないことを考えると、できるだけ早期にグリーン運動の海外展開について検討されることが望まれます。



取締役
グリーン運動推進委員会
副委員長
川村 豊

第三者所感を受けて

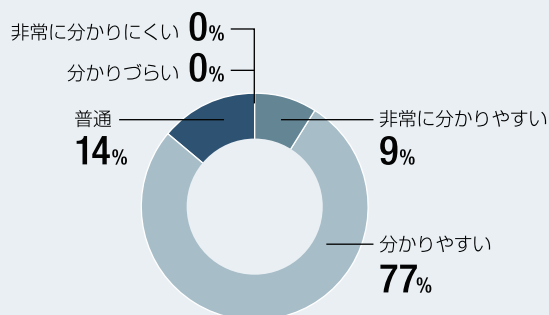
昨年より進めて参りました当社グループの国内外のデータ収集システムが完成し、環境・安全衛生・労務等のデータをより早く、正確な情報として一元管理できる体制を構築いたしました。そのデータから国内外生産事業所の労働災害発生件数、度数率、生産重量エネルギー原単位及び温室効果ガスのスコープ3の排出量の分析等を新たに報告しております。しかしながら、安全衛生に関してはご指摘の通り目

標の「ゼロ災」の定義が曖昧な点がありました。今後、定義を明確にし、活動結果を的確に説明するとともに、労働災害の潜在的危険性を低減し、安全衛生水準の向上を図って参ります。また、グリーン運動の取り組みのバウンダリーについては、早期に海外事業所も体制を整え、目標設定などを活動の範囲に含めて、グループ全体の改善活動となるよう進めて参ります。

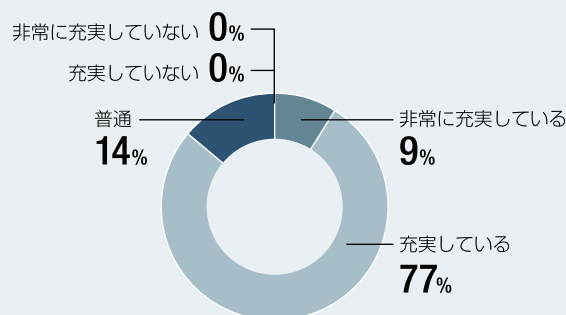
アンケート結果

2014年版環境・社会報告書について社内外からアンケートが返送されましたので、結果を報告させていただきます。皆さまからのご意見やご感想を今後の参考にしていきたいと思っております。ありがとうございました。

● 分かりやすさはいかがでしたか？



● 内容はいかがでしたか？



● 意見・要望をお聞かせください。

【特に良いと感じた報告内容とその理由】

環境配慮型製品

- Shupuaのように新聞・雑誌への露出度が高い製品があるとお客様にも興味を持ってもらいやすい。
- 製品紹介では社員の思い入れが分かって、私も製品に愛着がわいた。
- 社内でも部署が違えば全く製品の知識がありません。社外向けに記載された製品説明は分かりやすく、理解しやすい。
- ▶2015年度から「環境配慮・貢献製品」として、環境配慮に加え、お客様の製品や製造に貢献することも目的としていることを説明いたしました。今後もこのような製品を紹介していきます。

従業員とのかかわり

- 従業員とのかかわりの内容がとても充実していて、特に良かったと思います。外部からどう見られるのか？あるいは見られていることを意識した内容となるよう更に充実させてください。
- 社会環境の変化や社内人事制度の変革等大きな変貌の中で、当社の取り組みが表現され、当社の現況をあらためて確認することができました。
- ▶当社の雇用の現状やワーク・ライフ・バランスへの対応など、今後もその活動を説明していきます。

地域社会とのかかわり

- まさに地域社会とのかかわりが理解でき、大変良い。
- 具体的な事例で抽象的な内容がないため、分かりやすいと思います。従業員の環境に対する意識の高さを感じます。

【ご意見やご要望】

- 「地域社会とのかかわり」ではもっと震災復興や各地災害時などへの支援活動などの取り組みを推進すべきであり、これを伝えてほしい。
- ▶2015年度はこれら支援活動の一部を紹介いたしました。
- この報告書の目的と使い方が理解できておりません。顧客にどのようなタイミングで提供するのか、顧客はどのようなものを必要としているのかも理解できていません。そういう意味であまり必要性を感じていません。
- ▶本報告書は顧客（お客様）、株主、従業員、地域社会など多くのステークホルダーの皆様にご理解いただくために発行しております。例えば、顧客（お客様）へは、コーポレート・ガバナンス、グリーン調達や環境配慮・貢献製品の考え方などの説明により、当社の姿勢をご理解いただければと思います。

編集後記

製品を通じて、環境に配慮し、かつ、お客様の課題解決につながる「環境配慮型製品」を評価・認定する制度が創設され2年が経ちます。今年4月には、お客様の課題を解決することにより、地球環境及び社会問題の解決に貢献するという理念をより強く打ち出すために、名称を「環境配慮・貢献製品」に改めました。今年度からスタートした「グリーン運動第5次中期目標」には、認定製品を倍に増やしていく

ことを掲げています。

一方、昨年からの課題である、海外も含めた報告範囲については、仕組み作りが滞っています。第三者所感で、弊社のマーケットがグローバル展開している中、環境経営は遅れを取っているとの指摘を受け、さらに連結経営の重要性を意識しました。

上妻教授からいただいた所感や読者の皆様からのご意見の中から、改善できることから取り組み、その結果を報告してい



きます。

当社グループの環境・社会活動に関する皆様からの忌憚のないご意見・ご感想をお待ちしています。

ShinEtsu
信越ポリマー株式会社

お問合せ先

社長室

〒101-0041

東京都千代田区神田須田町 1-9

相鉄神田須田町ビル

TEL 03-5289-3714

FAX 03-5289-3707

URL <http://www.shinpoly.co.jp/>



この印刷物は、有害廃液を排出しない「水なし印刷」方式を採用しています。またインキには、VOC（揮発性有機化合物）成分フリーのインキを使用し、適切に管理された森林からの原料を含むFSC™認証用紙を使用しています。

